

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 議 録

(第 2 号)

1 平成6年9月12日（月曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 22名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	17番 鈴木 忠夫
18番 日下 君敏	20番 生稲 隆
21番 神田 守隆	22番 福原 勤
26番 辻田 実	28番 飯田 義男

1 欠席議員 4名

16番 鈴木 勝美	19番 川名 正二
23番 石井 昌治	27番 横溝 功

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総務部長 神子 純一	民生部長 渡辺 富雄
経済部長 小沼 晃	建設部長 三平 孝司
水道課長 谷貝 実	教育委員会 高橋 博夫

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 鈴木 哲
書記 四ノ宮 朗	書記 安田 仁一
書記 小山 真	書記 松浮 郁夏

1 議事日程（第2号）

平成6年9月12日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

◎議長（辻田 実君） 本日の出席議員数22名、これより第3回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（辻田 実君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の9月7日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

8番議員永井龍平さん。御登壇願います。

（8番議員永井龍平君登壇）

◎8番（永井龍平君） おはようございます。私は、既に通告してございます3点について質問いたします。

まず第1に、骨粗鬆症の予防と早期発見、治療のための検診事業を早急に実施したらどうかの質問でございますが、この問題につきましては、昨年の12月議会で私は提案いたしました。そのときの市長の御答弁では、当市はこの病気の予防対策として、健康教育を医師、保健婦及び栄養士等で行っているとのことでありました。そして、厚生省では現在骨粗鬆症の検診方法について研究中であるとのことでありましたが、本年度より国で予算化され、予

防対策のかなめとして、18歳から39歳の女性を対象とした骨密度の測定事業が各市町村の保健所、医療機関など全国 500カ所で4月よりスタートいたしました。

この骨粗鬆症は、骨の密度が減少することによって骨がすかすかになり、骨折しやすくなる老人病の1つで、中でも閉経期以降の女性が特にかかりやすい病気であります。骨は一たんもろくなると治りにくく、寝たきりになりやすいことから予防と早期発見が大切であり、このため、骨粗鬆症検診は家庭の主婦の健康づくりの一環として行われ、骨粗鬆症の定期診断を行う市町村に対し、国が費用の3分の1を補助するようであります。検診の対象は18歳から39歳までの家庭の主婦、自営業などの女性で、検診の内容は、骨のカルシウムなどのミネラル成分の量で骨の丈夫さを示す骨密度をエックス線検査で測定するものであります。

私の調査によりますと、新潟県ではこのほど、今年度から国の予算化に基づきスタートする骨粗鬆症事業の実施要綱を明らかにしたということであり、それによりますと、同事業は、若中年層における骨密度異常の早期発見がその予防対策のかなめであることから、女性の健康づくりの一環として実施されるもので、事業の内容は同じく18歳から39歳までの女性を対象に行います。そして、骨密度の測定と保健指導、検診費用に対する80%の補助、そして市町村の骨密度測定機の借上料の補助などを行い、県の予算額は2億5,800万円を計上して、8月をめどに希望する市町村を取りまとめたようであります。

さて、身近な安房郡内にありましても、丸山町、天津小湊町、三芳村などでもいち早くこの検診事業を実施しております。そして、大変多くの希望者と受診者があったようであります。このように、寝たきりの原因となるこの病気への不安は異常なほどの関心を持っているものと考えerわけでございます。

昨年の上長さんの御答弁では、全く消極的な姿勢でありました。三芳村などでは、この検診事業を実施した目的、理由として、加齢——年をとるとともに発症数が増加し、また村の病類統計から全体の10%筋骨格の病気があり、

骨量減少の状況を早目に発見して、食生活や日常生活の中でも対策が考えられ、医療費の抑制に少しでもつながればと思い実施しました、このように話しておりました。私はこの話を聞きまして、大いにうなずきました。村の担当職員の一人でも多くの村民が健康で老後を過ごしていただきたいと思う一念と、そして村の医療費が少しでも軽減できればという村を思う情熱にただただ感激をした次第でございます。

市長さん、どうかこの骨粗鬆症の検診事業の意義と目的を御理解いただきまして、早急なる実施をしていただきたいと強く訴え、お願いをいたすものでございますが、いかがでしょうか、お答えをいただきたいと存じます。

次に、第2点目の少子化と子育て対策についてであります。現在日本の女性の1人当たりの出生率がついに1.5人を割り込みました。育児休業の充実など、社会、行政、企業、男性が理解を深めて、子育てへの支援が今強く求められております。

中国の養児防老も日本の子宝も、老後の頼りにしたいという思いが多少込められている言葉であります。日本は核家族化が進み、子供との同居率が56%までに低下しております。一方では、医療、年金、福祉などの社会保障制度が整備されつつ、社会全体で高齢者を支える時代になりました。経済的に見れば、子供がいなくとも、老後は他人の子供が社会保障費を負担してくれます。逆に、子供を育て上げるには、大学の費用まで考えると、1人2,000万円もかかるのが実情であります。つまり、高齢者扶養は社会化されているのに、子育ての社会化は大きくおこなっているのです。こうした社会制度は、高学歴化して、社会進出で著しい女性の晩婚化と非婚化を促し、出生率低下の1つの原因となっているのであります。

昨年の平均初婚年齢は、妻が平均26.1歳、また0.1歳上がりました。実質的には世界最高であり、20代後半女性の未婚率は実に45%、出生数は前年より2万人減少して、合計特殊出生率は1.46人にまで落ち込んでしまいました。これはドイツの1.48人、イタリアの1.26人とともに世界最低クラスでございます。いずれも第2次世界大戦の敗戦国であり、人口問題をタブー視してきた上、封建的な家族制度が崩壊して、女性が社会進出をしております。

先進各国の家族給付費を見てみますと、国民所得の 5.4%を支給しているスウェーデンが出生率が2.11人に急上昇して、ドイツですら国民所得の 1.3%をかけて、出生率がかかなり回復した模様でございます。ところが、日本のそれは何と0.01%であり、例えば先進国の多くは児童手当を15歳、学生は19歳まで支給しているのに、日本は2歳までしか支給しておりません。

このような子育て状況の中で、21世紀福祉ビジョンが示すように、子育ては社会全体で強力に推進していかなければならないとしております。国はその対策として、少子化に歯どめをかけ、子供を育てやすい環境づくりを推進するためのエンゼルプランプレリウドが計画されているようでございます。その具体的な主な施策としては、通勤途上の駅に保育施設を設置する駅型保育の新設、企業がベビーシッター会社などと契約を結んで在宅保育サービスを提供する場合に利用料の一部を助成する、また24時間営業のコンビニエンスストアで出産、育児に関する情報の提供、そして海外在留法人に対する母子保健情報の提供など。これらの事業によって、子連れでの外出を渋ったり、子育てノイローゼに陥りがちな若年夫婦の悩みがかかなり解消されると期待されております。

これらは国政レベルでの子育て支援対策であります。先進的な各自治体にあっても、国の対応を待つまでもなく、この問題を真剣に受けとめて、独自にさまざまな施策を講じております。身近な例としては、既に御案内のとおり、鴨川市で行っている第3子からの20万円の出産祝金の支給、また鋸南町では第3子に10万円、第4子以降には40万円の支給というように、自治体ででき得る対策を考え、積極的に取り組んでおります。

そこでお尋ねをいたします。当市としては、少子化の歯どめと子育て支援策は現在どのようなことを考えておられるのか、御質問をいたします。

最後に、第3点目の老人が自立した生活のできる軽費老人ホーム（ケアハウス）の建設はできないかとの質問でございます。我が国の全人口に占める65歳以上の人の割合は推計で14%台に達しました。高齢化の指標とされる7%を突破したのが昭和45年であり、以来24年間でその比率は倍増したことになります。治療、診断技術の進歩は驚異的であります。が高齢化に伴う慢性

疾患や痴呆は増大の一途でございます。それだけに、病を抱えた人や家族を支え、自立した生活を送るための援助が高齢化社会の大変大きな問題となっているわけでございます。

総務庁はこのほど、平成2年の国勢調査をもとに、高齢者——65歳以上の単身者、夫婦世帯の実態をまとめました。それによりますと、単身高齢者は前回に比べて37.5%、夫婦世帯では34.5%にまで増加していることが明らかになりました。また、厚生省がこの9月5日に発表いたしました社会福祉施設等の調査の概況では、民間有料老人ホームに入居している高齢者の実態がわかりました。それによりますと、入居者の平均年齢は約77歳で、入居理由としては、病気になっても安心するが55%で第1位であり、以下、老後の設計に従った49%、家族に負担をかけたくないが28%であったとしております。この調査でも示すように、老人が安心して老後の生活が送れるような保護から援助へ、依存から自立へという要望に応えた福祉施設が今強く求められております。

私の提案いたします軽費老人ホーム（ケアハウス）は、公的な老人ホームの中でも住宅性の強いホームが軽費老人ホームであります。特別養護老人ホーム、養護老人ホームは、福祉事務所等の公的な機関を通して利用が決められることとなりますが、この施設は基本的には、有料ホームなので、利用を希望する人自身がホームに直接申し込みをするシステムになっております。しかし、一般のいわゆる有料老人ホームは入所時に多額の費用が必要であります。このホームは毎月の経常的な運営にかかる費用だけが自己負担になります。また、利用料も前年度の所得により公費の補助が受けられることになっております。

現在軽費老人ホームは3種類のタイプがあり、施設により、日常生活の相談に乗ってくれる職員が配置されております。A型と言われるホームは、生活のお世話と食事が用意され、B型ホームでは、基本的には自炊で生活をして、自主的、自立的に、そして住宅性がとても強く、老人ホームと呼ぶべきか多少疑問もある施設であり、そして一番新しいタイプがケアハウスと呼ばれるものであります。このホームは、食事のサービスもあり、生活のお世話

をする職員も配置されております。10カ年戦略では、今後10年間に10万人分の建設が計画され、今後の軽費老人ホームの中心になることとされております。そして、重要なことは、この施設の給食設備は地域の高齢者のための食事サービスにも利用されるものとしております。

このように、ケアハウスは新しく打ち出された軽費老人ホームであり、個人の自立した生活とプライバシーができるだけ尊重されるとともに、利用者の心身の変化に対応するよう配慮された住宅でございます。食事のほかに、生活相談、緊急時の対応、入浴準備等のサービスや、入所中に虚弱や病弱になった場合、ホームヘルパー、保健婦等の外部の介護サービスも受けられ、入所者が安心してゆとりを持った生活のできる施設でございます。

以上、軽費老人ホーム（ケアハウス）の重要性とその概要を申し述べましたが、老人の自立を促しながら老人を援助していくというこの施策については本年3月に策定されました老人保健福祉計画に盛り込まれましたが、この計画の今後の見通しについて御説明をいただきたいと思います。

以上御質問いたしました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの永井議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、骨粗鬆症の予防と早期発見、治療のための検診、この御意見でございます。厚生省では現在、骨粗鬆症の検診手法等について研究中と伺っております。館山市といたしましては、その動向に注目しているところでございます。なお、現段階では予防にまさる対策はないと、館山市といたしましては、重点健康教育として骨粗鬆症予防健康教育を実施しているところでございます。

次に、大きな第2、少子化と子育て支援対策についての御意見でございますが、少子化につきましては全国的な問題となっております。しかし、出産は極めて私的な領域であると認識しております。子育て支援につきましては、既に館山市では、乳幼児医療費の支給を初め、産休明け保育、乳児相談事業、

学童保育助成等、各種の施策を実施しているところでございます。現在厚生省では、少子化に歯どめをかけるため、子育てと仕事の両立を支援する子育て支援総合計画、いわゆるエンゼルプランが検討されておりますので、今後の動向を見守ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、軽費老人ホーム（ケアハウス）の建設はできないかとの御質問でございますが、老人保健福祉計画にも施設整備の目標を定めたところでございます。今後の国の財政措置状況及び千葉県の動向を踏まえながら、安房地域老人保健福祉圏域施設整備計画に基づきまして、民間施設の誘致を含めまして検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 8番永井さん。

◎8番（永井龍平君） 再質問をさせていただきます。

まず最初の骨粗鬆症の検診についてであります。まず、本題に入る前にお尋ねをしておきますが、この10月2日に健康まつりがございます。そのイベントとして骨粗鬆症の骨密度の測定が行われ、またヘルスパイオニアタウン事業の一環といたしまして、骨粗鬆症予防のための小冊子が近々全戸配布されると伺っております。私といたしまして、骨粗鬆症の検診事業のセミファイナル的な事業と私は受けとめており、大変結構なことと思うわけでございます。

そこでお聞きするわけでございますけれども、チラシによりますと、募集人員が80名、申し込み資格が市内在住の20歳以上 ― 男女ともでしょうか。そして、締め切りがあさって、9月14日でございます。それで、現段階で結構でございますが、現段階の応募者はどのくらい、何人ありまして、その年齢層はどうでありますか、お聞きしたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 健康まつりに今回初めて導入します検査ですけれども、現在 300名の申し込みがございます。それから、年齢層でございますが、比較的年配者の方が多いという状況でございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 8番永井さん。

◎8番（永井龍平君） 現段階で300名ということで、年配者が多いということでございますけれども、募集人員が80名ということで、まだまだふえると思います。80名という少ない受診の範囲でございますので、これ以上応募してもだめかなという線も出てくると思いますけれども、いずれにいたしましても大変希望者が多い、まだまだふえる、このように私は思うわけでございます。ぜひ成功させていただきたいと思います。

さて、このほど検診を実施いたしました天津小湊町と三芳村の検診内容を御紹介いたします。天津小湊町では、8月2日と3日、2日間で行いました。検診の方式は骨密度レントゲン方式、DIP方式と呼ばれる検査でございます。受診者数が344名。30代が11人、40代が59人、50代が80人、60代が122人、70代65人、80代が7人で、合計344名でありました。予算は1人2,700円であります。そのうち公費が1,700円、個人負担が1,000円であります。受診者の反応、評価といたしましては、希望者が大変多く、受診できない人が多く、大変困ったと言っております。しかし、受けた方は簡単で時間もかからず大変よかった、このように評価しております。

また、三芳村でございますが、8月の17日と19日に実施し、検診の方式は天津小湊と同じレントゲン方式であります。手の第二中手骨のエックス線による検査。施行したところは千葉県予防衛生協会の検診車であります。受診者の反応といたしましては、最初は30歳以上60歳までを対象に個人通知する予定であったそうでございますが、その前にチラシを配りましたら、希望者が多く、募集人員を超えることになった。予算は天津小湊と同じ2,700円。その受診者の内容でございますが、ほぼ天津小湊町と同じでございます。合計279人。年代別に申しますと、40代、50代、60代が両団体で大変多くあるようでございます。そして、三芳村の今後の課題としては、結果の悪かった人には保健婦による健康教育、栄養指導に努力し、3年くらい毎年検診を受けさせて経過を見守っていきたい、このようにしております。

以上、天津小湊町と三芳村の検診状況を申し述べましたけれども、この検診方式は結果の判明が約40日間くらいかかるそうでございます。三芳村では

今月の末ころに結果が出るわけでありますが、結果の出た天津小湊町での状況は、344名中23名の骨粗鬆症の患者が認定されたそうでございます。そして、この病気の境界型と申しまししょうか、予備軍と申しまししょうか、そういう方が80名おったそうでございます。全体の約3割の方が、要注意の方が明らかになった、このようにしております。

ここでお伺いいたしますが、この天津小湊町と三芳村の骨粗鬆症の検診事業とその結果について市長さんはどのように受けとめられますか、お伺いをするものでございます。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 非常にその骨粗鬆症について関心を持たれている時期でございますので、この天津小湊あるいは三芳の状況等は非常に関心を持って見守っているところでございます。今後内容については参考にしたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 8番永井さん。

◎8番（永井龍平君） 参考にしていくということでございます。大体境界型を含めまして約3割の方が要注意——中にははっきりした患者がいるわけ。3割の方、これについてどうですか。参考と言いますが、率直に言ってどう思われます。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） この症状の終末といいますか、寝たきりになるという状況のようでございますが、その寝たきりの約20%が骨粗鬆症ということをおっしゃっております。そういったことで、近い数字かなというふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 8番永井さん。

◎8番（永井龍平君） それでは——先ほどの質問の中で触れました、私。重ねて申します。

三芳村の担当者は、年をとるとともに発症数がふえて、また病類統計によ

りますと、全体の約10%の人が筋骨格の病気で占めている。骨量減少の状況を早目に発見して、食生活や日常生活の中での対策が考えられて、しかも医療費の抑制につながればよいと思って実施した、このように言っておるわけです。

また、天津小湊町でのその検診を実施した理由、発端といたしましては、平成4年度に国保加入者である高齢者の方が骨折する人が多かった。そして、かねがね骨粗鬆症の検査をしたいと考えていたというんです。そして、この検査を実施する前にこのようなエピソードがあったということでもあります。それは、健康衛生課の職員が昨年ある研修会に参加したそうでございます。そのときに、たまたまその会場で骨粗鬆症の検診が行われていたそうであります。先着 100名様まで。それで、その彼は食事の栄養の偏りがあった。そして、半年前に骨折の体験をした。そして、何よりも大事なものは、町で骨折者が大変多かったことが心配だったんです。それで、進んでその検診を受けたということでもあります。そのようないきさつがありまして、町では検診事業に踏み切った、よく検討して踏み切ったと聞いております。

このように、1人の職員、担当者が村民、町民の一人一人の健康を思いやる熱意と努力によって執行部の心を動かして、そしてこのような有意義な検診事業が実現できたんだなと私は受けとめております。

質問いたします。この両団体の検診の理由、発端の経緯について市長さんはどのようにお感じになりますか、お聞かせ願いたいと存じます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 貴重な御意見を拝聴いたしました。私の基本的な考え方は、5万 5,000の市民が、一人一人が健康で、幼児から熟年者まで生涯喜びをもって過ごす、そういう生き方をしてほしいと願うものでございます。

今お話を聞きますと、マスコミに出ますのでは、子供の段階から骨粗鬆症という言葉が使われる時代に入ってきたようにも聞いておりますけれども、実態はなかなか掌握されません。幸いにして — 幸いという言葉はどうか、厚生省の方でこの骨粗鬆症の検診手法について検討中である。これはう

れしいこととございます。ぜひともこれを、科学的な検診手法を打ち出して、それを広く国民の前に出していただきたいと念願するものでございますけれども、基本的には、最初に申し上げたとおり、すべての国民一人一人が本当に健康であってほしいと念願するものでございます。永井議員と同じ考え方と思っております。

◎議長（辻田 実君） 8番永井さん。

◎8番（永井龍平君） 館山のトップとして、5万5,000の一人一人の健康を思いやることは当然だと思いますが、この骨粗鬆症に対しましては、最終的に寝たきりになってしまう、その原因が大変多いわけでございますので、国の検診手法も頭にあると思いますけれども、既にいろんな多くの自治体が検診をやっております。いろんな病気——例えば胃の病気、肺の病気、肝臓の病気にしてもいろんな検査の仕方があるわけございまして、この骨粗鬆症の検査の仕方もうろいろあると思う。でも、既にそのいろいろな方法がある中で多くの自治体では独自にやっておるわけですから、ひとつ十分考えていただきたいな、このように思うんです。

次に、今市長から御答弁がございました。厚生省で骨粗鬆症の検診手法について研究中であるんだ、その動向に注目しているとの御答弁がありました。きょうの質問3点ありますけれども、全部動向という言葉が入っております。私はこの御答弁を非常に残念に思うわけです。それはどういうことかと申しますと、館山市にとっての新しい政策、施策の提案になりますと、決まって国の動向、そして県及び他市町村の動向を注目、また見きわめて対応するとの答弁がいつもなされます。これはその問題によってそういう御答弁もあります。また、なければならないと思います。これは全く本末転倒だと私思うんです。どういうことかと申しますと、政治は国民のためのものであります。国民の声、要望を行政に反映させるのが本来の姿であります。その意味で、さまざまな施策は国、県、市町村、国民へとの上意下達というんですか、ではなくして、国民の声、意見が市町村の行政に、そして県、国へと吸い上げられまして、さまざまな政策、施策の成果があるものと私は思うんです。その意味で端的な例といたしまして、国を左右する重大な政策に対しては、国

民の意思、真意を問う選挙という形があると思うわけでございます。

そういうことで、この骨粗鬆症検診事業の問題につきましても、先ほどの応募者の——大変多くの応募者があった。国民の間にも、また市民の間にも非常に関心が持たれておるんです。既に何例か紹介いたしました先進地では、いち早く国の対応を待たずにこの検診を実施して大きな成果を上げておるんです。館山市民の中にもこの検診をぜひ実施してほしいとの声が大変多いわけでありまして。

私はこの3日間に対面による聞き取りと電話によるアンケートをいたしました。この調査は20歳から50歳までの方、33人の方に行いました。骨粗鬆症という病気を御存じですか、そして自分の骨の状態を知りたいですかの質問に対しまして、専門家の保健婦、栄養士さんも含めまして、大方の人がこの病気に対して知っている、そして検診を受けたいと強く希望しておりました。

このように、病気への強い関心度と検診の希望が大変多いことについてどのようにお考えなのかお伺いしたい。そして、当市における骨折者、筋骨格による病人の方はどのくらいおりますか。直近の年度のもので結構でございます。教えていただきたいと思っております。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 現在その人数は把握しておりません。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 前半の御質問で、先ほど申し上げましたように、館山市としましては、重点的な健康教育の1つとしまして、この骨粗鬆症、これには健康教育が、幼児からの健康教育が原点であるという考え方を持つわけでございます。

実は、おととい、きのうと市内の4つの中学校の全部の運動会を見てまいりました。非常に子供たちは健康で、はだして運動場を駆け回っているのを見ましてうれしく思ったんですがございますけれども、こういう子供であってほしいし、このままこの健康さで生涯過ごしてほしいと喜んできたわけですが、この骨粗鬆症は最近出てきておりますし、科学的な調査の方法その

他についてこれから十分検討していく段階じゃないかと思います。でありますから、ことしの間もなく行われます健康学習で一部希望者の方の相談を受けるというところへ踏み込んできているわけでございます。そういうふうに積み上げていきたいと思います。もとはやはり心身の健康教育が原点だという考え方でございます。御了解いただきたい。

◎議長（辻田 実君） 8番永井さん。

◎8番（永井龍平君） 市長さんは現段階では、今の御答弁で、検診よりも予防教育を優先する考えのようであります。

それでは、私ちょっと御説明します。予防教育よりも検診の重要性を各方面では強調しているんです。三芳村では——3回目になっちゃいますけれども、予防検診の目的として、筋骨格の病気が多いために、骨量減少の状況を早目に知るといことです。予防教育よりも検診で、自分の状態を早目に知るために検診をした。

天津小湊町でのチラシ——その中の見出しで、検診により、まず自分の骨の状態を確認しましょうって検診をやっているんです。重要性を訴えているんです。

さらに、全戸配布されます、先ほど言いましたヘルスパイオニアタウン事業の一環で配布されます骨粗鬆症予防の——「あなたの骨大丈夫」というタイトルです。その小冊子にも、骨粗鬆症が疑われる人は主治医に相談しましょう。さらに、自分の骨量に関心を持ち、できるだけ病気を治していく努力が必要です、このように載っています。予防教育よりも自分の骨の状態に関心を持つということは——自分の骨の状態がわかんないって関心も何もできないんですから——こう言っている。

また、東京大学老年病学の教授であります折茂 肇先生は言うんです。有名な先生です。骨粗鬆症の治療について、骨粗鬆症になってしまっても、これ以上骨を減らさないようにする薬、腰の痛みをとる薬などは開発されております。今では、お医者さんの診断を受け、早く治療を始めれば、ちょっと転んだだけでも骨折をしたり、腰の痛みに悩まされることはないようにできます、このように言っているんです。

そして一番大事なのは、やはりヘルスパイオニアタウン事業の一環で、昨年ですか、配布されました「守ろう健康生かそう健診」の冒頭に、検診の目的は、成人病を初めとした体の異常の有無を発見するほか、受診者が自分の健康状態を知ることが大事ですよ、このように言っているんです。

市長さんは検診よりも予防教育が重点だ、大事だ、このように言っていますが、すけれども、この総合検診の目的と意義を踏まえた上で、骨粗鬆症に対してのさまざまな病気でありましても、初めに検診ありきであって、予防のための検診、そして教育、治療のための検診、そして教育、私はこのように考えますがすけれども、長々と骨粗鬆症の検診事業の重要性を訴え、るる申し述べましたけれども、再度伺いますけれども、先ほど市長がおっしゃいました5万5,000の市民の健康を守る、そういう意味で、また寝たきり防止を防ぐためのこの検診事業の早急なる実施はどうですか。できませんか。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 永井議員の御質問の — 答えは同じだと思うんです。同じ考え方に立つと思います。二者択一じゃない。今肥満児の問題が — 話は変わりますけれども、肥満児の問題が最近随分問題になっています。結局もとへ返りまして、子供のうちから食生活に、また生活リズムに、そこからこうやっていかなければだめですよというところで、骨粗鬆症も同じことで、これは永井さんのおっしゃることと私の意見と二者択一じゃなくて、同じことだと思います。骨粗鬆症の予防対策として、健康教育は原点だと。しかし、ちょっとでも自分の体に心配や疑問を持つ、あるいは何か感ずる。これはほとんど科学的な予防検査を受けて、そして具体的な対策を考えていく必要があるということで、これは分けて考えるものじゃなくて、一体的に考えるものであるという考え方をもちます。

◎議長（辻田 実君） 8番永井さん。

◎8番（永井龍平君） 二者択一ではない、両方大事だと市長さんはおっしゃる。それは確かにそうなんです。ですから、私は予防のための検診だ、そして教育だ、こういうふうに言っているんです。それは検診は大事、予防教育も大事だ。ちょっと時間がありません。またさせていただきます。

次に、少子化と子育て対策について質問いたしますが、この子育て対策につきましても、各自治体としても独自にさまざまな施策を考えて実施しております。さきに申し上げました鴨川市、鋸南町の出産祝金もそうであります。いろいろな市でいろいろな施策をやっておるわけでございますけれども、例えば子供の保護者が疾病や出産、事故などで一時的に教育が困難になった場合に、子供を児童福祉施設で短期間預かってあげるとか、また第3子以降の子供が市立保育園に入った場合、子供の保育料を半額にするとか、いろんな施策があると思いますけれども、先ほどの答弁でいろいろな――幼児の医療扶助とかをやっておりますけれども、いろんなことをこれから考えていただきたいなと思います。

今申し上げましたようなことについていかがですか、それで質問を終わりますが。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） こういった子供たちを短期預かる場所、今県内では5カ所あるわけでございますけれども、館山市では一番近い君津相談所に預けているという状況でございます。

それから、先ほど保育料の助成の関係がございましたが、現在その軽減は考えておりません。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 以上で8番議員永井龍平さんの質問を終わります。

次に、7番議員鈴木順子さん。御登壇願います。

（7番議員鈴木順子君登壇）

◎7番（鈴木順子君） 私は、通告をいたしました4点についての質問をさせていただきます。

まず第1点目ですが、平和行政について伺います。二度とあってはならない悲惨な戦争が終わってから来年でちょうど50年目を迎えます。全国では、多くのところでさまざまな団体が、毎年終戦の日の8月15日近くになると、反戦と平和を願うことを最大のテーマに映画会やパネル展、講演会などを行っております。館山でもことしは戦争をテーマに映画会が幾つか行われまし

た。私自身もこの映画を見てまいりました。会場に入って非常に驚いたことは、多くの小学生、中学生がいたということです。戦争を知らない世代がふえていく中で、果たして子供たちが当時の状況を理解し得るのだろうか、そう思いまして、そっと後ろの方から様子をうかがっておりました。隣にいる親御さんらしい人に話を時々聞きながら、映画を見ていた子供たちが目を真っ赤に泣きはらして、こんな大変なことがあったなんて知らなかった、こんなことは二度とあってはいけないと思ったとアンケート用紙に記入をしていた様子を見たときに、私たちはもっともっと多くの人たちに平和のとうとさを語り継いでいかなければならないというふうに実感をいたしました。

館山市では、今から2年前の9月、平和都市宣言をいたしました。今もお武力による紛争が地球上では起こっております。戦争によってもたらされた多くの犠牲を考えたとき、戦争と核兵器の廃絶を、世界の人びととともに世界の恒久平和を実現しようと提唱をされたと認識をしております。戦後50年を迎える節目といたしまして、平和のとうとさを戦争を知らない世代にどう伝えていこうとしているのか、お伺いをしたいと思います。また、県内の自治体においては、パネル展や記念碑等、何か形として残せるような事業を考えていくとお考えのところもあると伝え聞いております。館山市においては、来年の終戦50年の節目に何か事業の計画はなされないのか、お伺いをいたします。

次に、第2点目の質問に移ります。学校施設の整備についてお伺いをいたします。まず、各学校の教室の状況についてお伺いをいたします。私の所属しております文教民生委員会では、前年度から今年度にかけて管内視察をいたしております。まず、各学校にお邪魔をしてまいりました。その際に気にかかった問題点として幾つかございましたが、今回はできるだけ早急に解決をしてほしいという問題をお尋ねをしていきたいと思います。

まず、学校を回ってみて、大分きれいに整備をされて、大事に使われているという印象を総体的には受けました。教室も、私たちの世代のときにはすし詰め状態であったように記憶しておりますが、現在は、出生率の低下ということも影響しているのでしょうか、大分ゆったりとした中で授業ができる

ということで、非常に反面うらやましい思いなどもいたしてまいりました。そんな教室の状態でありましたが、豊房小学校に伺った折に、理科室と家庭科室を併用して使っているということでありました。学校側としても、別々の教室にしたいという思いもあるように伺っておりますが、ほかにも同じような状況にある学校があるのかどうか。私の記憶では、ほかにはなかったと記憶をしておりますが、確かなところをお伺いをいたしたいと思います。理科室といえば、薬品などを使用するのは当然だと思います。その同じ教室で、同じ場所で調理実習をするというのはどう考えてもおかしいのではないかとと思うのですが、いかがでしょうか。また、同小学校は大分年数もたっており、建てかえのお考えなどもあるのかどうか、見通しなどもお聞かせいただければと思います。

次に、2番目の小さな2点目といたしまして、更衣室の設置についてお伺いをいたします。体育の授業を受けるのに体操着に着がえるわけですが、現在中学校、小学校では男子と女子が一緒の教室で着がえをすると聞いておりますが、いかがでしょうか。思春期の恥ずかしいという意識が芽生える時期の子供たちにとっては、苦痛に感じていると話す子供がいます。小学校4年生以降の子供たちの更衣室の問題については、館山ではありませんが、一部の地域で問題となっていることが新聞報道をされておりました。この新聞報道によりますと、発端は、小学校4年生の女の子が同じ教室で男子と一緒に着がえをするのは嫌だと新聞に投書があったところ、反響が非常に大きかったということでございます。私もそう思っていたとか、いや、わがままだとか、激論を紙上で繰り広げたようです。私も知り合いの子供たちにどう思うか、何人か尋ねてまいりました。ほとんどの子供が嫌だと思っていると答えました。男子の方はそれほどでもない様子であったということを一言つけ加えておかなければなりません。それでは、嫌だと思っている子供たちはどう対応しているのかというと、体育のある日は朝家から体操着を着ていってしまう、または着がえはトイレですということが主な実態だそうです。

2年前に神奈川ネットワークでこの件についてのアンケート調査をした結果が新聞に報道されておりました。体育のある日は制服の下に体操着を重ね

着していくという中学生は約7割もいたということです。そのうちで、不便を感じているというのは5割いたということです。逆に、更衣室は必要ないと考える生徒も3割いたということです。この子供たちにその理由を尋ねますと、着がえる時間がない、トイレで着がえればよいという答えが返ってきたということです。この結果に対し、運動して汗をかいた上に重ね着をすれば、新陳代謝の激しい時期の子供たちだけに、蒸れてあせもができたりする原因にもなっている。髪の毛の長さなどには非常にうるさい学校が健康上問題がある重ね着を黙認するのはおかしいと指摘をされておりました。館山市内小中学校の現状はどうなのか、またこの問題についてどうお考えになるのか、お伺いをしてまいりたいと思います。

次に、第3点目の質問に移ります。多様化をする各福祉サービスに対して、人的配置をどう計画していくおつもりなのか、お聞かせを願いたいと思います。館山市では、本年3月に老人保健福祉計画を作成いたしました。目標年度は平成11年度末となっておりますが、いよいよこの計画を具体化していく段階に現在あります。住民本位の実現を目指していかなければならないわけであります。また、福祉は今やかつての恩恵的とかの考えではなく、住民の自立支援、権利保障を行うべきものではないでしょうか。寝たきりをなくすという目的のもとに始まった福祉計画ですが、保健予防の視点が大事であることや、福祉マンパワーの養成確保及びそこに携わる人びとの労働条件の改善について大変重要になってきております。また、住宅介護、福祉における家族の位置づけや24時間サービスの問題、一貫した障害者施設の必要性、市民参加型の福祉活動など、完全なものとはなっていないことを指摘しておかなければなりません。館山市の計画では、サービスの目標にのっとり、具体的に年の計画を進めていくものと思われませんが、利用目標量は決まっても、それにかかわる人材確保をどう考えているのか伺わなければなりません。計画の途中年度で見直しがあるとしたしましても、1年1年は過ぎていきますので、具体的に動いていかなければならないわけです。多くのサービス事業がありますので、具体的な計画の中身についてお伺いをしてまいります。

次に、4点目の質問に移ります。異常渇水状況についてお伺いをしております。昨年の夏は記録的な冷夏と言われ、農作物への被害が大きかったことは御承知のとおりでございますが、ことしの夏は8年ぶりと言われる猛暑でありました。また、生活をするのには必要不可欠である水が不足をしたことについては、連日のように新聞、テレビで報道をされていたことは御承知のとおりであります。あわせて、水不足により、農作物への被害なども一部地域で出ていたようでございます。館山市では農作物の状況はいかがだったのでしょうか、被害として出ているのでしょうか、お伺いをいたします。

次に、小さな2点目ですが、南房総広域水道で水の心配は本当に解消されるのかどうか伺ってまいります。ことしの夏のような水不足がございすると、南房総広域水道が実際に利用できるようになったとしても、果たして大丈夫なのかなと思うのは当然のことであります。それは、この水源の大もとが利根川から来るということにあります。東京都も利根川から取水をしておりますが、御多分に漏れず、ことしは取水制限を20%から30%としてきていたわけです。ついせんだって、この制限を41日ぶりに解除したと聞いておりますが、大多喜ダム経由で利用する私たち利用者への影響も当然出ると思うのですが、制限をせざるを得ない状況も出てくるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。御承知のように、南房総広域水道計画は、常に水不足にある状況を解消するためと銘打って始められた経緯がございまして、ということですので、お伺いをするわけでございます。また、今年度作名ダムの状況も大変な状況にあったということで、全員協議会での御説明がございました。今の作名ダムの状況もあわせてお答えをいただきたいと思います。

以上御質問申し上げましたが、御答弁によりまして再質問をしております。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木順子議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、平和行政についての御質問でございますが、私も戦中戦後の

生活体験をした者の一人でございます。また、現在国民の40歳前後から40歳台、これは戦後の物資不足の中を生き抜いてきた人びとでございます。その一人としまして、次の世代に平和のとうとさを伝えていくことは非常に大切なことであると考えております。また、現在の地球上の人びとの生活の様子を考えましても、世界の永久平和と安全は日本人としてだれしもが願ってやまないところでございまして、恒久的な平和を基本姿勢としまして、これを遵守していかなければいけないと認識しております。今後ともあらゆる機会をとらえ、平和意識の啓発に努めてまいりたいと考えております。

なお、来年戦後50周年を迎えるが、特に何かやるのかとの御質問でございますが、今のところ館山市単独としてのそういうことは考えておりません。

大きな第2の学校施設整備について、この2つの問題につきましては教育長より御答弁申し上げます。

大きな第3、多様化する福祉サービスに対しての人的配置の問題でございますが、老人保健福祉計画の人材確保の目標値を踏まえまして、今後保健福祉サービスの需要に応じた体制づくり、これに努めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第4の異常渇水状況についての第1点目、農作物への影響はどうだったかとの御質問でございますが、米につきましては、8月15日、関東農政局千葉統計情報事務所の発表によりますと、館山市の作況指数は103でございますので、平年作以上の収穫が見込まれております。夏の野菜につきましては、8月17日、千葉県農政課の被害調査の中で、館山市では落花生の立ち枯れが見られ、実入り状況が懸念されているということでございます。秋野菜につきましては、今後の雨の状況によっては播種期のおくれが予想されます。このように、この時期が播種、定植時期でもある野菜には影響はあろうかと思えます。しかし、その中でかん水施設整備等施設化が進んでおります農家においては大きな影響はないと考えられます。

次に、小さな第2点目、異常渇水の市営水道の現況についての御質問でございますが、ことは降水量が異常に少なく、水道用水の安定供給が一時危ぶまれましたが、汐入川上流からの緊急取水、特に水利権者の快い御協力を

ちょうだいしました。さらに、水道加入者の節水の御協力、これらによりましてこの事態に対処してきております。

なお、作名ダムの貯水量は、けさ現在38.1%でございます。

次に、渇水時の取水制限についての御質問でございますが、利根川水系の取水制限が実施されますと、南房総広域水道もその影響を受けることになると思います。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第2の小さな第1点目、教室の状況についての御質問でございますが、従来より学校施設整備を図る中で検討をしております。また、校舎等の大規模改造事業により解消を図るべく検討しているところでございます。

次に、小さな第2点目、更衣室の設置について、男子、女子が教室で同時利用している状況についてどう考えるかとの御質問でございますが、市内各小中学校には更衣室が設置されておらず、普通教室、特別教室等を男女別に更衣室として使用している現状でございます。館山市教育委員会といたしましては、現在の施設及び設備を有効に活用し、円滑な更衣ができるようさらに市内各小中学校に指導してまいりたいと考えております。

以上。

◎議長（辻田 実君） 7番鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） それでは、再質問をさせていただきます。

まず、平和行政について伺ってまいりたいと思いますが、市長さんも戦争の真ただ中にいらっしゃったということで、よくその辺のことは御存じだということで、かねがねそういう話は伺っておりますが、私は具体的にこれをどうやって戦争を知らない世代に伝えていくのかということをお聞きしたいんです。あらゆる場面をとらえてそれを伝えていくというような御答弁だったと思うのですが、やっぱり具体的にこれをどうやって伝えていくのかということをお聞きしていきたいんです。というのは、平和都市宣言ですが、

おとしされまして、庁舎にも都市宣言の内容が書かれました碑が飾ってございます。市内の施設等にも飾ってございますが、私は非常にそこっ者ですから、結構見落としたりなんかするんです。一般の人もそういうものがあるということを結構御存じない方もいらっしゃる。ちゃんとした内容についてをああやって市民に広めていくということはとても大切なことですから、それは非常にいいことなんです、具体的にもうちょっと——どうやって伝えていったらいいのか。例えば、戦争の体験をなさった方の体験談を小冊子にするとか、そしてそういうものを市民の皆さんにも見て考えていただくとか、そういったことも必要ではないかと思うんですが、抽象的な、非常に漠然とした言い方、御答弁だったものですから、具体的にどうやって伝えていくのかということを再度ちょっとお尋ねをいたしたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 永野市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） ただいまも議員がおっしゃいましたように、平成4年の9月に平和都市宣言をして以来、平成5年、昨年の12月には各公共施設9カ所、ことしは菜の花ホールができる予定でございますので、そこにも平和都市宣言の宣言文を掲げたい、このように思っておりますが、そのほか具体的には、1つには民間で行ういろいろな平和事業への支援がございます。それは、1つには被爆者同友会等で行っている反核フェスティバル、これは間接的に補助を出しておりますし、それから、昨年の10月だったと思いますが、学徒兵と館砲洲空展というのをコミュニティセンターで行いました。これも民間の人たちの非常に労作であるわけでございますが、それらもいわゆる広報等を通じて積極的に市民に知らしめたところでございます。そのほか、やはり図書あるいはビデオ、フィルム等の視覚に訴える、この両面があるだろうと思いますが、教育センターの中にも16ミリのフィルムや、あるいはビデオ等がたくさんあるわけでございまして、これらを通じて、あるいは図書館の図書等を通じてそれぞれPRして、また使っていただく、こういうような形を考えております。来年度にはさらに、フィルムの中では、広島原爆に関連いたしましてフィルム等も購入する予定になっているところでございます。そういう意味で、それらを広報等を通じて特にPRすることに

よって、市民意識の高まり、こういうものを積極的に進めてまいりたい、このように考えているところでございます。

◎議長（辻田 実君） 7番鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） やっぱり具体的に聞けばいろいろとあるということです。結構じゃないですか。こういうことを意外と知らないんです。一般の市民は教育センターにそういうものがあるということも知りません。そういうことをもっともっとやっぱりPRしていったほしいなというふうに思いますので、これはあらゆる機会を利用して、それこそ利用して、PRをもっとやってほしいなというふうに思います。

そして、例えば私今回の映画会の中で思ったんですけれども、これは無料じゃありませんので、鑑賞券を販売したんですけれども、その販売の際に子供さんから返ってきた言葉というのが非常に端的に時代をあらわしているなというふうに思ったんですけれども、戦争の映画は見たくない、そんなのおもしろくないから見たくないよというような子供さんからの声が非常に多かったということで、これは子供さん——小学校、中学校、できれば高校ぐらいの子供さんの教育ということについても、ぜひ教育の場でこういったことも活用——教育センターにそういういいものがあるんですから、活用していただきたいなというふうに思うんですが、それについては教育長さんはいかがお思いですか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 平和教育の大切さというのは、鈴木議員さんと同様に、また市長が答弁したとおり、教育の場においては、これは大切な指導内容の1項目でございます。そのためにも、私どもといたしまして、あらゆる場において平和教育を推進していくということで、まず第1番には的確な情報の提供、これが第1だと考えておるわけでございます。情報の中には、いわゆる映像によるところの情報、それからただいまお話がありました口コミと申しますか、体験者の体験による話によるもの、または資料による見るものとあるわけでございますけれども、その中での的確なものは、やはり情報によるものが感銘を受ける場でございますので、あらゆる教育の場の中で活

用できるものは、館山市の教育委員会といたしましても、それぞれの学校の中での教育課程の中において十分にこれは挿入をしていかなければならないと思ひ、月1回ずつまたは学期によりまして教育センター係という係会議等も実施しておりますので、そういう中でもまた話し合いを進めてまいりたい、こう考えますし、家庭教育の中においてその大切さというようなものもまた指導していく必要があるのではないかと感じております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 7番鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 本当に戦争を知らない世代の子供たちにはぜひまたそういった教育の中でもしていってもらえたらというふうに思いますので、お願いをしておきたいとします。

そして、次に事業の計画なんですけれども、今のところ市単独では考えていないというような御答弁だったんですが、ついせんだってですか、テレビで報道されておりましたが、埼玉県がこの50年、いわゆる半世紀を契機に何らかの形で残したいということでした。そして、何をしたいこうかということについては今後の課題なんだろうけれども、予算化がされるということで、たしか 770万というふうに聞いておりましたが、何かイベントをされるということでした。また、県内におきましては、県議会などにおきまして要望事項としてうたってございます。そして、その結果が出ますが、多分今度の県議会において何らかのお答えをいただけるんじゃないかというふうに伝え聞いております。県内の市町村でも、市単独でこの問題について何らかの行事をしていこうじゃないかという動きが、県北の方が中心なんです、かなり出てきています。八千代市では、6月議会で行事をやりますということが議会において答弁されているというふうに聞いております。我孫子市でも同じようなことで、来年のことですから、今後やるということは決定しましたけれども、何にするかということについてはこれからまた引き続き協議をしていくということでありました。ほかの市でも、さまざまところでそういう方向に向かって動きがあるということをここでお伝えしておきたいとします。さっきも言いましたように、できれば体験談とか資料とか、そ

ういうものを冊子にさせていただいて、残すことができればいいなというふうに私は思っておりますので、再度ここで検討をお願いしたいというふうに要望しておきます。

次に、2番目なのですが、学校施設の問題ですが、教室の状況をお伺いをしておりましたが、よく私も理解ちょっとできなかったんですけども、私が問題にしましたのは豊房小学校でしたが、ということは、学校を今後新築なり改装なりするという方向で考えていくから、その中で理科室で調理をするというようなことのないような状況が出てくるというふうに理解していいんですか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 2点の御理解をしていただきたいと思うわけでございます。その第1点目は、今議員さんのおっしゃるとおり、大規模改造時において十分にそれは検討して、その解消を図るということでございます。2点目は、日常の教育課程を推進する中でもって、そういうような使用の中に不便をかけないように学校並びに教育委員会といたしましても指導をしながら、十分にその教育活動の効果が生まれるような方法で両方の併用を進めるようにしてまいりたい、こういうふうに考えております。

◎議長（辻田 実君） 7番鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 大規模校ということで、改造のときにということで検討していくということは、それはいいんですけども、どう考えても、やっぱり理科室の薬品なんかを置いてある場所で調理をするというのは好ましいことじゃないわけです。非常に不自然です。ところが、あの学校は空き教室が余りなかったようなふうに私は記憶をしているんですが、その辺——これは各学校の使い方というんですか、教室の使い方については各学校でそれぞれがお考えになってやるんでしょうけれども、やはり不安を与えるような状況というのは余り好ましくないんじゃないかなというふうに思うんですけども、とりあえず仮設でも何でも別々にするとかというようなことは考えられませんか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） お説のとおり、豊房小学校には余裕教室はございませんし、特別教室が現在マイナス1というのが基準の中になっているところでございます。その点につきましては、現在私どもといたしまして——私も豊房小学校に籍を置いた一員でございますので、日常の生活の中において具体的にどうしていくかという方策についてちょっと御説明申し上げたいと、こう思うわけでございます。

まず、教育課程の編成におきまして、家庭科の調理実習が問題になってくるわけでございますので、調理実習と理科の実験の行われるそのずれを求めて指導をするということでございます。それから2つ目は、薬品上の問題でございますので、その薬品庫の保管については十分な配慮をしているということです。それは何かというと、薬品庫のかぎの保管は教頭がそれを実際にやっております。それから、内部の薬品につきましては、強酸性及びアルカリ性及び燃料等につきましては十分配慮し、その使用残量につきましては、使用簿等にそれをきちんと明記をするというふうにしております。それから、学期にはそれをさらに安全点検ということでもって、安全点検簿というものを学校に設置をいたしまして、それらの保管につきましても十分配慮をしているところでございます。また、教師の指導上の技術及び指導上の配慮ということでもって、校内研修等によりましてその運用を的確にするように指導してまいっている状況でございまして、現在その不便をする中において工夫をしながら、いずれの日か、それが実現する日をそれぞれが待っているというのが現状じゃないかと思ひまして、教育委員会といたしましても、先ほど御答弁申し上げましたとおり、検討をしているというのが現状でございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 7番鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 確かに、薬品などが置かれているところで調理するわけですから、それなりに配慮してもらわなきゃいけないんですけれども、例えばこういうことはできませんか。いずれ大規模校として改造等の検討がなされるのであれば、それはそれでよい。ただし、調理をするところに薬品があるという状態を——部屋からその薬品類を出すというような状態という

のはできないですか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） これにつきましては十分な管理をしておりますし、またそれに調理上には差し支えないように、現状としてはそういうふう管理をしておるから、現状としては、今までの保管状況からしても支障はないというふうに考えております。

◎議長（辻田 実君） 7番鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 教頭先生ですか、かぎの管理をなさっているのは。そういう状況の中で管理をされるということについては、教頭先生はかなり気を使って管理をなさっているんじゃないかなというふうに思うんです。そういうことから考えても、本当にできるだけこういうことは早くに解消してほしいなというふうに思います。薬品ですから、事故がないとは限らないわけです。そういったときのことをやっぱり考えてしまうと、あのときしておけばよかったということでは済まないわけですから、その辺のことは真剣に、何らかの方法がとれるのであれば、そういう方法をまた別な面からも検討していただきたいなというふうに思います。

それで、ほかの学校ではこういったような使い方をしているところはなかったように記憶しているんですが、どうですか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 学校建設規模その他によりまして、同一的な学校が他に1校ございます。これは富崎小学校でございます。ほかにはそういった例は今のところございません。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 7番鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 私は富崎へたしか行ったんですが、記憶になかったです。見逃しました。同じようなところがほかにもあるということで、余計問題が——そっちの方もまたぜひ心配をしてもらわなきゃいけないんですけども、私実は豊房小に通っている父兄の方に伺って見たんです。薬品を使う教室で調理実習をしたということで、たしか授業参観があったときに、そ

の現場で調理実習に参加なさったという父兄にちょっと聞いたんですけれども、やっぱりおかしいというふうなことで、不衛生だし、危険じゃないかなということで、隣にいた父兄の方と二、三人で話したというようなことをお聞きしました。だけれども、だれに言っているかわからなかったし、そのままにしていたんだよというようなことでした。できればできるだけ早く理科室と調理室は — 家庭科室というんですか、分けてほしいというふうにおっしゃってありました。これは当然のことだと思うんです。

将来的な計画ということが出ているんだというふうなことでしょう。大規模校としての改造時ということの答弁がありましたので、できるだけ早くこれを解消していただきたい。財政面云々ということでは済まされないということをご指摘しておかなければいけません。私なんか端的に思うんですけれども、いろんな事業を市でやりますけれども、どうも学校施設関係の整備については延ばし延ばしになっているというか、後回しになっているような嫌いがあるんじゃないかなという認識をどうしても受けちゃうんです。そういうふうに感じることをないように、ぜひ市の方にも対応していただきたいというふうに思いますので、これはよろしく願いをしていただきたいと思います。

次に、更衣室の問題についてなんですけれども、教育長さんの御答弁ですと、特別教室などを利用してるような御答弁があったんですが、本当に特別教室を更衣室として使わせているんでしょうけれども、ちゃんと現実に利用されていますか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） ただいま答弁いたしましたとおり、現在のものとしては、学校によってそれぞれその使い方が違っておるのが現状でございます。大部分のものは普通教室を使用しているというのが現状でございます。中には、近くにそういうような余裕教室としての特別室、または従来から利用している特別室等をもって、いわゆる高学年の女子のところの使用というところはあるわけでございますけれども、いわゆるその方法といたしまして私の承知しているところでは、まず普通教室の場合、5年生ぐらいから上に

なりますという、男女別に時間差を設けて更衣をしているということ。それから、ただいまお話ししました近くにある特別室を利用しているというもの。または、中学生になりますという、男女別の体育指導等が行われますので、2教室を片方は男子の更衣、片方は女子の更衣というようなことで使用しているのが現状でございます。これは何分にもそれを担当するところの学級担任及びそれを指導する担当の教科の職員の指導というようなものがやはり大切になってくるわけでございますので、そういう指導配慮という中でもって実施をしているというふうに私どもは存じております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 7番鈴木順子さん。

◎7番（鈴木順子君） 私なんかの世代というんですか、ときにはこういうことは話題にならなかったんです。ところが、御承知のように、今の子供たちというのは非常に発育が早いです。そういったことから考えてみましても、私も最初子供から聞いたときは、そういう発想すらなかったものですからびっくりしたんですけれども、ただ、だれの立場になって物を考えてやらなきゃいけないかなといったら、やっぱり学校は子供中心です。子供のそういった意見というんですか、気持ちというのは大事にしてやらなきゃいけないんじゃないかなというふうに率直に思いました。

ちょっとそこでお聞きしたいんですが、私の周りでは余りこういうことを聞いたことなかったんですけれども、この更衣室を小中学校につくってほしいというふうなことが何らかの場で話題になったようなことというのはあるんでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） この話につきましては、いろいろと日常の会話の中には、職員の間にも出ているようには伺っておりますけれども、それ以前に、まだそれを固定するということまではきておらないというのが現状でございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 7番鈴木順子さん。

◎7番(鈴木順子君) 御承知のように、先ほども申しましたけれども、今の時代の子供たちの発育状況を考えた場合、たしか文部省か何かが — 間違えていたら済みません。文部省か何かの統計だと思ったんですが、今の子供たちの、5、6年生の発育状況は40年前の中学3年生に匹敵するというような話を聞いたことがあります。そういったことから見ても、恥ずかしいというふうに思われる年代が下がってきているわけです。私は小学校6年生ぐらいの子かなと思ったら、あに反して小学校4年生ぐらいでもう男の子と一緒に着がえるのは恥ずかしいというようなことを言っていましたので、先ほども教育長さんの方から御答弁あったように、各学校によって、また学校の中でも各クラスによってこの対応の仕方が全然違うんです。片や、トイレで着がえれば、先生からそれはだめだと言われる。片や、トイレで着がえても構わないというところもあるということで、先生方も本当に困っているんじゃないかなというふうに思うんですけれども、そういったことを考えて、今子供が少なくなって、空き教室の使い方ということが1つには問題になっているようなんですけれども、その辺を利用して何らかの — 利用するには利用するだけのチェック体制もとらなきゃいけないだろうし、問題もまた逆に出てくる可能性もあるだろうし、大変でしょうけれども、何とかこの辺については検討していただければというふうに思っています。

あと、一言ここで申し上げておかなければいけないことは、ある学校の先生にこの問題についてどう思うかと聞きましたら、学校では同じ教室で子供たちに着がえをさせている。ところが、自分はうちへ帰ってみると — 小学校のその先生は6年生の子がいるんですけれども、女の子なんです。もうおまえも思春期なんだから、着がえをするときぐらいは人の姿の見えないところで着がえをしろというようなことをうちへ帰れば言うというんです。これはちょっと — 学校ではそういう指導をして、うちではそうやって言っているということについては、聞いた先生自身も非常に反省をしておりました。今度は気をつけていかなきゃいけないなということを言っておりましたけれども、そういった声が一部あるということについては、今後ぜひ考えていただきたいというふうに思います。

時間がちょっとありませんので — 人的配置につきましては、先ほども申しましたように、やっぱり老人保健福祉計画の中に例えばホームヘルパーさんが11年度末には54人になるというようなことがきちんとうたってあるわけです。この54人になる年度年度の計画というのは需要に応じてと言っていますけれども、ぽんとヘルパーさんを募集して、集まって、すぐ使えるというわけではないと思います。やっぱり専門的な知識とかをしていただかなければいけない。その間の期間のこととかを考えますと、やっぱり年度年度で計画を持ってやっていってほしいというふうに思います。これはこれからのことですから、いずれまたお伺いをしていきます。

最後のこと、異常渇水状況についてなんですが、農作物については大体御答弁のとおりだと思います。今後についていろんな問題が出てくると思うんですが、それはまた、昨年度も同様でしたけれども、被害状況を見ながら適切な対策をとっていただきたい、対処していただきたいというふうに思います。

最後の水道なんですけれども、やっぱり利根川が — ことは特に異常だったかもしれませんが、利根川がああいうふうな状況で制限を受けるということになれば、やっぱり館山に来るところも制限を受けないわけじゃないんですから、そういったときに市としてはどうなんでしょうか、どういうふうに対処をするおつもりなのか、ちょっとお聞かせください。

◎議長（辻田 実君） 谷貝水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 利根川の取水制限と市民の利用の皆様への影響の関係でございますが、先ほど市長が答弁申し上げましたとおり、利根川水源の取水制限が行われた場合は、南房総広域水道もその対象になると思われます。しかしながら、利根川の取水場から大多喜浄水場までの間にはダムもございますので、直接利根川から取水しているところに比べますと渇水時の対応がしやすいこと、あるいは南房総広域水道から受水する安房、夷隅の14の水道事業体、この14の事業体ともに現在自己水源を持っているわけでございますので、取水制限が仮に20%行われましても、直接利用者の皆様に20%制限ということではなくて、その率はかなり軽減できるものと、こういうふ

うに考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 以上で7番議員鈴木順子さんの質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開いたします。

午前11時49分 休憩

午後 1時01分 再開

◎議長（辻田 実君） 午後の出席議員数22名、休憩前に引き続き会議を開きます。

21番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 既に通告をいたしました5点についてお尋ねをいたします。

まず第1点は、保険医療の入院給食費負担についてでございます。社会党の村山委員長を首班とする内閣が成立をいたしました。人に優しい政治を看板にしているとのことですが、この内閣とともに成立したのが健康保険法の改定でございます。10月から入院については患者本人に1日800円、当面2年間は600円の病院給食費の負担を求めるというものであります。こんなことをして、どこが優しい政治などと言えるのでありましょくか。この政府の方針に対して全国の自治体では、次々と国が放棄するなら国にかわって県や市町村が住民の福祉のために単独でもこれらの助成措置をとるといふ動きが広がっております。ところが、驚いたことに、厚生省は全国の都道府県に対して、入院給食費を助成する措置は今回の法改正の趣旨に沿わないからと批判し、それらを不適切と決めつける通達まで出していたのであります。まさに厚生省こそが弱い者いじめの先頭に立って蛮勇を振るっているという状態ではないでしょうか。優しい政治という村山内閣のこれが本質なのでありましょくか。

館山市議会は、昨年12月、病院給食費の自己負担に反対する意見書を決議いたしました。この意見書では、入院給食の患者負担の制度化は、入院患者の負担が増大し、特に高齢者や長期入院患者に与える経済的、心理的な影響

ははかり知れないと指摘し、また、病院給食は病気の治療を目的とする治療食であり、医師の処方に基づき医学的、栄養学的に管理されたものであり、保険給付から外すことは容認できないと批判していますが、まさにそのとおりであります。この意見書が言うとおり、政府においては病気になったらいつでもどこでも安心して治療を受けられる公的保険の充実こそ目指すべきであります。

そこで、市長にお尋ねをいたします。健康保険法の改正で、10月から保険医療の入院給食費負担が実施されるわけですが、これは大改悪だと思うのでありますが、市長はどのようにお考えになりますか。

次に、館山市にはこれまで各種の医療助成制度があります。今回の法改悪との関係で、市のこれら医療助成制度についてどのようになさるお考えでございましょうか。報道されている内容によりますと、東京都では、乳幼児、ひとり親、障害者、公害患者、被爆者医療などについては、今回制度化される入院給食費の自己負担に対して助成措置をとるということであります。千葉県においても前向きに検討中とことが報じられております。館山市は、全国に先駆けて21年前に6歳未満の乳幼児医療の無料化を実施した市であります。今、国の法改悪で医療無料のこの制度の趣旨が崩されようとしていると思います。今回の法改悪は、乳幼児医療等市で実施している各種医療助成制度の趣旨を崩すものと思うのでありますが、どのようにお考えになりますか。

次に、今9月定例市議会に老人医療に係る入院給食費の助成を求める請願が提出されております。これまで、1973年に70歳以上の老人医療は無料となりました。ところが、老人保健法によって一部負担が導入され、徐々に負担増がされましたが、負担額自体は比較的低額に抑えられてきました。今回の改正で老人が入院した場合、1日700円の定額負担にさらに給食費600円が加算されます。老人の負担は一気に、大幅に拡大することになります。入院は、それ自体が患者本人にとっても家族にとっても大変な負担であります。老人医療に対して市は入院給食費負担を助成するべきと思うのでありますが、いかがお考えになりますか。

第2点は、文化ホールの雨水利用問題についてであります。文化ホールの建設予定地はコミュニティセンターの前の用地であります。この周辺は境川に代田排水路や南町排水路が合流し、特に蛭子神社周辺や熊野神社周辺はこれまでも雨水の排水がうまくいかず、たびたび溢水をしております。境川は、長須賀排水路や中央排水路など、都市市街地の重要な排水路の流出先となっています。このため、大雨のときなどは一気に境川に流れ込み、境川は物すごい流量となり、汐入川の合流地点では、境川の流れに押されて汐入川自体が流れなくなるありさまであります。コミュニティセンター内に文化ホールがつくられた場合に、文化ホールの敷地内に降った雨水の排水はどのように行われるのか、そのいかんによっては、周辺の現在でも余りよくない雨水排水状況をさらに悪化させることになるのではないかと思うのであります。

東京国技館は、その屋根に降った雨水の貯水装置を備えていることで有名であります。この装置を設置するきっかけになったのは、国技館周辺はいわゆるゼロメートル地帯であり、広大な国技館の敷地内の雨水が一気に排出されると、周辺地域の排水に困難を来し、周辺商店街を初めとした付近一帯が水浸しになることが懸念されたからでありました。雨水を一時貯留するなら、さらにそれを多面的に利用してはどうかということから、雑用水や防火用水などにも利用できるように計画されたということでもあります。決して雨水を雑用水に再利用しようとするのが当初の目的ではなかったようであります。しかしながら、この水不足の中で、国技館のこの貯水設備は大変注目されました。都市は、その足元に降った雨を単に排除するというのではなく、水資源として見直すべきだという考え方であります。水は無限なものではなく、有限な資源であります。自らの足元の資源としてこの雨水を見直すということは、大変重要な視点だと思うのであります。

文化ホールの敷地はかなりなものですので、その排出する雨水量もかなりのものであります。雨水利用は、周辺の溢水対策、防災対策、緊急水源、雑用水等さまざまな観点から検討すべきものと思うのでありますが、いかがお考えでありますか。

第3点は、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への給食サービスの問題につ

いてであります。現在行われている給食サービスは、社会福祉協議会で、ボランティア、民生委員の協力により、月に2回のひとり暮らし高齢者を中心としたものであります。そのねらいは、ひとり暮らし高齢者との心の触れ合いを求めようとするものであります。しかし、食事は毎日のものであり、食事内容のよしあしはその方の健康を左右する重大な問題であります。ともすれば簡単な食事に偏り、それがもとで健康を害する高齢者がたくさんあります。ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯の日常の生活を援護するという点から考えると、食事に関する援護というのは極めて重要なポイントであります。

私はこの問題をたびたび取り上げてまいりました。市の老人保健福祉計画の中でもこの問題は次のように位置づけられました。ひとり暮らしの高齢者、虚弱老人の増加を考慮して、食生活の改善を通して健康保持を図り、定期的な訪問により、在宅での生活を支える生活援護型給食サービスを実施すべく、民間の活用や配食システム等の体制づくりの整備を図りますというわけであります。私がこの問題を最初に取り上げたころはまだ国の補助事業として位置づけられていませんでしたが、現在では国もこの制度の重要性を認識し、国の補助事業とされています。このため、財政的には市町村の負担も軽く済むようになっています。こうして、この事業に取り組む市町村もふえてまいりました。近隣でも、鋸南町や白浜町でも実施しています。県内でも非常に高齢化の進んでいる館山市として、いち早くこの事業に取り組むことが切実な課題ではないかと思うのであります。老人保健福祉計画で書かれたことを単なる作文にすることがあってはなりません。その実施に向けて本格的な検討を進めるべきと思うのであります。生活援護型給食サービスの実施を急ぐべきと思うのでありますが、いかがお考えでありますか。

次に、第4点、都市計画税の税率引き下げについてであります。今年度の固定資産税及び都市計画税の納付書が市民に送られ、私のところに市民の方々から切実な苦情が寄せられました。この評価替えは増税ではないかという私の議会での質問に対して市は、評価替えは増税のためではなく、税の不均衡を解消するためだという説明を繰り返してまいりましたが、3月市議会の私の質問に対し、固定資産税と都市計画税の今年度増収分の3割は評価替え

の結果であることを認めました。これは、試算をしてみますと、約 6,000万円にもなります。税の不均衡を是正するという名目で 6,000万円も市は増収になったのであります。これは市民をだましたことであります。評価替えは増税ですとはっきりさせるべきであります。

現実に、評価替え後の納付書が市民に送られた段階で具体的に増税という姿が表面化してまいりました。しかも、この増税はことし限りのものではなく、評価替えの結果は大幅なものなので、負担調整をして今年度は抑えてあるので、これから年々増税になっていくことになります。したがって、これはことし限りのものではなく、これから年々続けられていく大增税と言うべきであります。この評価替えに伴う固定資産税と都市計画税の増税について、市民の批判が強いことについて市長はどのようにお受けとめになっておられるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、私は、年々進められるこうした増税を緩和するには、現在 0.3%の制限税率いっぱいまで課税している都市計画税の税率を下げるべきだと考えます。0.05%下げれば約 9,000万円の減税に相当し、今年度の評価替えに伴う増税は相殺になります。そもそも、館山市は市街化区域と調整区域の線引きがされていない都市計画区域になっています。いわゆる未線引き区域であります。この未線引き区域の市は県内では10市ありますが、勝浦、鴨川、八日市場の3市は都市計画税を徴収しておりません。銚子、茂原、東金、旭の4市は 0.2%の税率でありますし、八街は0.25%の税率であります。都市計画税の制限税率は 0.3%ですが、この制限税率いっぱいまで課税しているのは佐原と我が館山市のこの2市だけであります。館山市民は全国最高の税率で都市計画税の重税を負担していることになるのであります。制限税率まで課税している都市計画税の税率を引き下げるべきだと思うのでありますが、いかがお考えでありますか。

次に、消費税増税に対する市長の所見についてお尋ねをいたします。去る7日、野中自治大臣が自民党本部の講演で、所得のある人に減税をやって、そのかわりに所得のない人にも負担を求めようというのは少しおかしい。初めに行財政を改革し、税制の不公平さも是正すべきだ。財界は優遇税制を受

けておいて、政治の指南役のようなことを言っている。もうかっているのに税を軽減していたら、自民党は過去の族議員になる。租税特別措置を全部凍結か廃止したらどうかと発言したと報道されました。自民党のこれまでの経緯から考えると、この発言は何かうそっぽい気もしますが、その言っていること自体は当然のことであり、多くの国民の声でもあります。問題は、それを本気で徹底してやるのかどうかということでもあります。

全国知事会等の地方団体では、地方消費税の導入を政府税制調査会に働きかけています。消費税増税について、地方団体がその促進役を買って出ているのであります。住民の命と暮らしを守るはずの自治体が住民の暮らしを削る消費税増税を促進しているのであります。消費税は言うまでもなく、所得のない者からでも、所得の低い者からでも容赦なく取り立てる弱い者いじめの税制であることに変わりはありません。地方団体がこの消費税増税促進を進めていることを市長はどのように考えているのでありましょうか。

そもそも、消費税増税を公約して昨年の総選挙を戦った政党はありません。もし増税をするというのなら、国会を解散して国民の真意を問いただすべきであります。この消費税増税について市長はどのように考えておりますか、その所見をお聞かせいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

まず、大きな第1の保険医療の入院負担についての小さな第1点目、健康保険法の改正によります入院給食負担の実施について、この御質問でございますが、今回改正の入院時の食事に係る患者の一部負担の趣旨については、入院と在宅時における負担の公平化及び食事の質の向上等を図ろうとするものと理解しております。

次に、小さな第2点目、乳幼児医療等、市で実施しております各種医療助成制度についてはどうかとの御質問でございますが、千葉県との動向を踏まえ、前向きに検討しているところでございます。

小さな第3点目、老人医療についてはどうかとの御質問でございますが、国の指導もございますので、法改正の趣旨に沿って対応してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、文化ホールの雨水利用についての御質問でございますが、千葉県で昨年度実施いたしました南地域文化ホール基本設計の中で雨水利用について検討したところ、文化ホールの水使用の状況や施設の構造等から、雨水利用施設は設置しないことになったと伺っております。周辺の溢水対策等につきましては、現在館山市で委託しておりますコミュニティセンター用地利用計画の中で検討しているところでございます。

次に、大きな第3、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への給食サービス事業についての御質問でございますが、現在社会福祉協議会及び社会福祉協議会の各支部で触れ合い型の給食サービスが実施されておりますが、生活援護型の給食サービスにつきましては、調理や配食の体制などの問題がございますので、早急に実施することは難しいものと考えております。しかしながら、在宅福祉サービスの一環として今後も検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第4の都市計画税の税率引き下げに伴う小さな第1点目、固定資産税の評価替えに伴う税負担についての御質問でございますが、今回の評価替えは、全国的に評価の均衡化、適正化を図ることを目的として行われたところでございまして、税負担につきましては、急激な上昇を極力抑制するための負担調整措置が講じられておりますので、評価替えに伴う固定資産税、都市計画税につきましては、税法改正の趣旨に沿ったものであると認識しております。

小さな第2点目、都市計画税の税率を引き下げるべきではないかとの御質問でございますが、現在館山市では、西口土地区画整理事業や公共下水道事業等、地域の活性化のため、さまざまな都市計画事業を進めているところでございまして、これらの貴重な財源として現行どおり進めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第5点目、消費税増税に対する所見についての御質問でございますが、この問題につきましては国税の問題でございます。国政の場で論

議を尽くし、国民が納得のいく税体系を構築することを期待するものでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 保険医療の入院給食費負担の問題について、市長は健康保険法の改正については、私は大改悪だと思うけれども、そうは思わない。今の御答弁ですと、在宅との負担の公平を図るということで、この法の趣旨だということで、それをお認めのようなお考えであります。

それで、館山市議会が昨年の12月に病院給食費の自己負担に反対する意見書を決議したんです。このことについてどういうふうに受けとめられますか。ここでは病院給食に対して、病院における給食というものは医療そのものだ、したがって保険給付から外すべきでない、こういうのが——この議会の意思として決議を上げたわけです。これに明確に反するんです、これは。我々から出された意見書が踏みにじられた決定だ、こういうふうに私は認識しているんですけれども、市長さんは議会の意見書決議との関係でこの問題はこういうふうにお考えになりますか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） さきの意見書のことでございますけれども、こういった意見書を踏まえて今回検討しているということでございます。そういうことで御理解をお願いします。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 今言っている意味が2つにちょっととれたんですけれども、こういう意見書が出ることを踏まえて、館山市としては、国が今回行ったこういう言ってみれば改悪に対して、館山市としての一定の助成措置をとりましょう、こういう意味で乳幼児や何かの問題については県に合わせて市としてもやっていきたい、そういう意味で言ったんですか。そうではなくて、館山市や何かの意見が出されたこと、そういうものも踏まえて今度の改定がされた、こういうふうにお考えになっているということですか。後者だとすると、明らかにこれは考えが違うんです。いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 意見書も踏まえてということでございます。そういうことで御理解をお願いします。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 踏まえてという表現はなかなか難しいんですけれども、踏みにじって——踏まえ方もいろいろありますから、それを踏んづけたんです。違いますか。いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 小幡助役。

◎助役（小幡清之君） 意見書は確かにさっき議員のおっしゃったとおりで、これは国政の場で審議する際に地方としてはこういう意見だということで出したわけでございますけれども、このような改正になった。そうしますと、やはり法治国家である以上はその法に従うということでございます。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 法治国家だから、法律は無視できないんです。それは百も承知です。だから、その法律で変えたことをどういうふうに評価しているかということを知っているんです。私はこれはいいことだと思わない、しかし法律で決まった以上しようがないのというのも考えですし、これが法律で決まったことは当然のことだと考えるとは天と地ほど違うわけです。そこを聞いているわけです。いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 小幡助役。

◎助役（小幡清之君） 当然ということではなくて、一応反対の意見を出したけれども、決まった以上はそれに従わなきゃならないということでございます。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） そこで、館山市のそれぞれの医療に対する助成制度——東京都は、乳幼児、ひとり親、障害者、公害患者、被爆者医療、難病患者とか、それぞれに対して自治体として行ってきた医療助成、これを10月以降も、入院給食費の自己負担分に対してもその対象として助成措置をするんだ、こういうことを決めたということです。千葉県もいろいろ検討してい

るようでありますけれども、先ほどの答弁では、県の動向を踏まえて前向きにと言ったですね。これはなかなか難しい政治的表現で、県がやらなかったらやらないのかな。県は、今報道されているところでは、やる方向で検討されているというふうに報道されていますから、これはいいのかなという気がするんですが、これまだ決定ではありませんから、県が実施をしない、あるいは物によっては実施しない — いろんな医療に対する助成措置がありますから、館山市の場合でも、医療に対する措置で市独自のものもございますから、県の助成対象になっていないものもありますから、そういうことも踏まえて、一応市で実施をしておる医療費に対する助成措置、これについては全部対象にするという方向で検討していくというふうに理解をしていいのかどうか、前向きにということの前向きの前にあるその条件との関係はどういうふうに考えたらいいか、お聞かせいただきたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 各種制度の中に乳幼児医療あるいは心身障害者の医療制度、そういった各種のいろんな事業があるわけですがけれども、その内容によっては県の助成も実は受けているわけです。そういった意味で、県の動向はもう全然考えないで、市で単独で検討するというわけにはいきませんので、そういった動向を踏まえて前向きにということで表現をしたわけです。御理解をお願いします。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） わかりました。じゃ、ここでは前向きにということで、好意的に考えていいんだなというふうに受けとめます。

これは10月の1日からなるわけです。そこで心配なのは、県の検討が10月以降にずれ込むことが十分懸念されるということがあるわけです。そうしますと空白が生まれるわけです。したがって、市の検討は県との調整等があるにしても、一応10月1日という時点についてどのように考えているのか、もう10月1日から即やるという方向で前向きにというふうに理解していいかどうか、その辺ですが。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 市長から先ほどお答えしましたとおり、そういった動向をしっかりと受けて検討するということになりますと、今申されました、神田議員さん申されました10月1日からの施行ですので、もう1カ月ないわけです。そういったことで、今現在は検討中ということ、県、国の情報を的確につかんでどう制度的に適用していったらいいか、そういったことで現在積極的に検討しているところでございます。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） この議会が28日までありますから、この議会の経過の中でも、県議会でもいろんな論議があったりとか、どんどん状況も変わってくるだろうというふうに思いますので、私は、市としては10月1日からやるぞという腹構えを持ちながら、この問題についてはぜひ検討をするということをお願いをしたいと思います。

老人医療の問題では、これは法改正の趣旨に沿ってということで、今回入院給食費負担を助成する考えはない。大変つれない御返事というふうになるんですけれども、そういうことなんですか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 老人保健の関係になりますと、市が単独で導入した場合は相当経費がかかるわけです。国の今回この改正によつての指導が実はなされておりまして、地方単独事業により、入院時の食事にかかわる患者の支払いを軽減したり、あるいは解消したりすることは、その事業の名目が何であれ、今回の制度改正の趣旨に沿わないという指導が実はなされているわけです。そういったことも参考にしながら今後対応してまいりたいというふうに考えております。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 今の通達は老人医療についての通達じゃなくて、医療全体なんです。だから、市の言っているのは半分妥当というか、当てはまることと半分当てはまらないことがあって、同じ通達で、乳幼児医療とか他のいろんな医療に対しては、助成は前向きに検討する。しかしながら、老人医療となるとそれはなかなかできない。本当のところは経費がかかるから

ということが本音なのかなと思うんですが、幾らかかりますか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 老人保健では、試算によりますと 7,500万です。それから、ほかの事業も含めて報告しますと、乳幼児医療助成では約 100万円、それから身障医療者 — 児も入りますけれども、医療助成で 1,400万、母子家庭医療費で約 3 万円という補てん財源が必要になってまいります。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 市長さん、この 7,500万円という金額は出せませんか。

◎議長（辻田 実君） 小幡助役。

◎助役（小幡清之君） この御質問の答弁をまとめる際に、市単独の医療制度、老人保健というものは、質問も別だったんですけれども、あえてこういう答えになったことは、財政的に無理だということでございます。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） お年寄りに優しい政治ということが政治の非常に重要なテーマの1つでありますけれども、伝えられるところでは、確かに老人医療に対して入院医療費の補助を出すということを決定した県あるいは市町村、まだそう多くはないというのが実態であります。確かにそのとおりで、かなりの財政上の負担という問題があるかと思うんですが、だからといってないわけじゃなくて、そういうことを行うということを決めた市も報道されているわけです。私は決して不可能というふうに考えるべきではないと思うんですが、いずれにしましても、この問題について、この地域は大変高齢者の人口割合が高い。高齢者問題は非常に重要な位置と役割を持っています。入院した方がその場合に非常に大きな財政上の負担を新たに求められるということになりますと、これは地域の医療全体に及ぼす影響も極めて大きなものが懸念されるわけで、そうした点から、これは県に対してこういう老人医療についての助成なり補助なり、県ならばもっと大きな財政上の問題がありますから、そういうことで検討をお願いできないかというようなことを考え

るべきじゃないかなと思うんです。そういう考えはもう全くないというふう
に受けとめてよろしいかどうか、その辺はいかがお考えですか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 県、国への働きかけということでございますけ
れども、これは特に老人保健、財源的にも非常に額が大きいわけです。館山
市だけの問題じゃなくて、他市町村と同じような問題を抱えているわけです。
今後の動向の中で働きかけてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 文化ホールの雨水利用問題であります。私は主
に溢水対策といいますか、こういうことからこの雨水利用という問題を出し
たわけでありまして、約1万平米かと思うんです、この文化ホールの敷地の
中、それから駐車場等を含めると。今後の開発により、あの周辺一帯はコ
ンクリートに覆われるといいますか、雨水が一気に排出されるような状況と
いうのは、これは進むだろうというふうになろうと思うんです。50ミリとい
うような雨が降った場合には、1万平米ですと500トンぐらいの水が一気に
排出される。現況のもとでも、境川というのはかなり問題がある川だ。これ
までも、私が議員になりたてのころから南町の排水路のこととか、さまざま
な問題がたくさんこの境川にかかわる問題で議論の対象になってきたわけ
であります。この境川の排水についてどのような認識を持っておられるか。一
気に雨水がどんどん流れ込むようなことというのは、この境川に関しては今
後抑制していくようなことも考えなきゃならないんじゃないかなと思うんで
すけれども、その辺いかがお考えですか。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 境川の状況でございますが、現在蛭子神社付近
から下流につきましては2級河川でございまして、県の管理であります。改
修方につきましては要望しているところでございますが、今後引き続き要望
してまいるといところでございます。

また、コミュニティセンターの雨水対策でございますが、やはり当然境川

の流下能力を十分勘案した中で、コミュニティセンターの敷地の中に調整機能を持つ施設を検討してまいりたいというところでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） これは9月の10日に出された新聞の下水道促進デーの漫画なんです。おもしろいことが書いてあるんです、これ。なかなかうまくできた漫画だなと思いましたがけれども、ここでは都市型洪水——公共下水道をつくれればつくるほど洪水がひどくなるという話が東京だとか都市部では多くなっているんです。それは、一気に水が排出されるから、公共下水道を整備すれば洪水がなくなるんだということで一生懸命やってきたのは反対の結果になっていることに対して、公共下水道というのは水を排出するだけじゃなくて、それを徐々に排出させるとか、そういう機能を持ったもので、国技館の施設はそういう公共下水道の機能を持ったものなんですという、こういう紹介を——漫画ですからわかりやすいものなんですけれども、やはり従来の一気に早く流せばいいという発想を変えないと、館山市も都市型洪水、こういうものの轍を踏んでしまうということになりかねないと思います。

そういう点で一番心配なのは、私は境川の流域にかかわる問題だろうと思いますので、そういう意味で、今御答弁ありましたように流下能力という問題も十分な検討をしながら、あそこの敷地の中に一時貯水能力を持つような池をつくるのか。建物の下にあればいろんな利用の仕方がありますけれども、そうじゃなくても、池をつくったり、調整的な機能を持ったものを検討することですから、ぜひお願いをしたいと思います。一步さらに進んで、それが防災対策とか、緊急用の水源とか、こういうような観点からも利用できるということで、総合的に考えれば決して高いものにつかないと思うんです。

私はそういう点でちょっと危惧している問題があるんですが、膨大なお金をつぎ込んで南房総広域水道をつくるわけです。しかし、こんなに長い180キロにも及ぶ送水管、配水管を含めまして、地震のときどうなるのかな。命のもとですから、水は。耐震用の井戸ということで市内に何カ所かつくられ

ております。しかし、この防災という観点から考えた場合には、こうした水源、貯留する水源というものの意味というのは違う意味で光が当てられなきゃならないんじゃないかな。そういう点も含めて考えれば、この貯留装置というのは命の水として大変重要な役割を果たすことも検討されなきゃならないと思うんです。そういう意味で、総合的な視点に立ってあそこのコミュニティセンターの、文化ホールの雨水排水の問題を考える必要があるんじゃないかと思いますが、いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 先ほど申し上げましたように、境川の現在の流下能力が非常に厳しい状況にあるのは十分承知しておるんですが、一部やはり県の方で流域のカットだとか、あるいはそういうものを含めまして改修をお願いしておるんですが、今度の文化ホールの雨水につきましては、先ほど申し上げましたように、当然その流下能力に限度があるのに上乗せをせずに、さらに調整機能を持った施設をつくって放流をしていくという考え方であります。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） そうすると、最初の市長の答弁では、雨水の再利用装置は考えないというようなお話だったですけれども、実際には調整池ということで、溢水対策は何らかの調整池みたいなもので実際はつくられていくというふうに今の御答弁から伺うんですけれども、だとすれば、溢水対策という狭い視点だけではなくて、それをさらに積極的にいろいろ活用しようじゃないかというような点から、防災対策の問題とか、場合によっては雑用水という問題だとか、いろんな観点ということで必要になるかと思うんですが、そういう点での研究といいますか、検討といいますか、そういうことをお考えになるおつもりはございませんか。ぜひお願いしたいと思うんですけれども。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 現在検討しておりますのは雨水の調整機能を持

ったものということでございまして、当然雨水の調整機能を持たせますと、調整池といいますか、そのものについては次の雨が来るまでの間には当然ゼロにしておかなくちゃいけないという状況がございます。そういうことで、余裕の持てる他の利用については現在検討はしておりません。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 水というのはいろんな見方や考え方があるということで、発想を変えて多面的に考えるということがどうもこの水問題は大事な視点のようですから、ぜひそういうことで、1つの問題提起ということで受けとめて、今後の検討をお願いしたいと思います。

第3点目の給食サービス問題であります。さっきの御答弁では、早急な実施は困難だが、今後も検討するというんだけど、これはどういうふうに受けとめたらいいんですか。早急な実施は困難だが、今後も検討というのは、いつになるのかわからないなと思うんですが、時期的にどういうふうに考えておりますか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） いろいろその施設あるいはシステムづくり、こういったことで総合的にとらえますと、いろいろ問題が多くて、すぐにはクリアできないというのが実態でございまして、そういったことで、将来的には当然生活援護型というサービスを提供していかなければならないという時期にはきておりますけれども、そういった1つ1つの施設あるいはシステムづくり、こういったことを総合的に検討しなければならないということでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 館山市が老人保健福祉計画をつくって、その中でこれをやりますよということを掲げたわけです。そこまできましたから、市も努力しているのかなと思ったら、今の御答弁ですと、それ以上の検討がなかなか進んでいない。民間の活用あるいは配食システムをどうするかという

問題を解決して実施したいというような趣旨でしたから、老健計画の中で書かれていることと同じことしか言っていないわけですから、あそこから全然まだ進んでないなという印象を今のところ持つんですが、これは国保新聞に出されたものですが、新ゴールドプランの基本的方向ということで、厚生省もいいかげんなもので、また今度ゴールドプランができたなら新ゴールドプランだといって、最近新というのをつければ何かいいんじゃないかみたいに――国民も錯覚する覚えがあるんですけども、出たわけです。この厚生省の新しい素案骨子、この中では配食サービスという名前で、これは全国実施になっているんです。全国の市町村くまなく実施しなさい、平成11年まで。これが国レベルの問題でこれから論議――これは骨子でありますから、平成11年度までということなんですが、しりが切られる。館山市が一番最後にそこに駆け込むような市になるというのか、それとももっと市は早い段階でこの問題についてはやっていこうとするのか、その辺の市の姿勢はどうなのか。早期実施は困難となると、これは平成11年の一番最後、こういうぐらいのことでしか考えてないんじゃないか。そんなことはない、国が言うよりもっと早い時期にやりますよ、こういうふうに受けとめていいですか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 先ほど申し上げましたとおり、いろいろその問題が、課題があるわけです。老人保健福祉計画では平成11年度までにということで計画をなされておりますけれども、そういったことで、いつまでという、平成11年の前の何年度までということは今の段階では考えておりませんが、計画にのっている以上はそういったことで今後検討してまいりたいというふうに考えております。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 具体的な方法として、民間の活用というようなことで書いてありますけれども、よくやられている方策は、特別養護老人ホームのセンター、その厨房設備、そういうものが中心になって、それに配食システムをつなげてやっていくというようなのが無理のない形でやれる形として全国でかなり取り組まれているんです。館山市も、全域を一気にやるとか、

こういうふうになるとなかなか大変な面もあるんですけども、モデルケースなり、一定程度やはり検討をしていく段階、そういうところに踏み出すのは、もうそう先のことを言ってもらえないんじゃないか。全国実施ですから。今までは各市町村にやることが望ましい事業になっていたのが、新ゴールドプランでは全国実施なんです。そういうことを踏まえて、館山市としてももう少し具体的な足を出すべきだ、その辺の検討をしていただきたいなと思います。

それで、時間が余りなくなってきましたから、市長さんにお尋ねしますが、けれども、消費税の問題、これは国民の大問題であります。市長は国政の場で論議することだからって言っていますけれども、国政の場の論議というのは、下からの、国民の声によって論議されるんです。当たり前じゃないですか。全国の市長さんの入っている全国市長会とか、あるいは全国知事会とか、地方団体は地方消費税をやってくださいと言っているんです。市長さんはそういうことに対して――市長はその片割れじゃないですか。消費税増税をするという片割れを担っているんじゃないんですか。それは困るんじゃないか。いや、それは当然のことだ。市長さんのお考えはどうなんですか。消費税についての問題は国政の場だというようなことを言ってもらえない、私はそう思うんですけども、いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 税制改革、税制そのものは、これは完全に国政の場で十分な論議を尽くすべきもので、まして、さっきの問題にかかわりますけれども、新ゴールドプランが出まして、平成11年までにおやりなさい。でも、財源については全くの見通しなしでおやりなさい。そして、新聞の報道によりますと、このゴールドプラン実施には地方財政を含めまして5兆を超える金が必要である。次の平成6年度の予算の概算要求に、お金は必要ですよという要求だけ出して、全然額も何も入っていないという、こういう状況でございます。こういう仕事をやっていくには金がやっぱり必要でございます。財源がどうしても必要である。こういう大きな仕事、これは国政の場において徹底的に論議し、国民の納得のいく線を出すべきだ、こう考えるわけです。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） この消費税の問題 — 時間ですね。大変重要な問題で、市長さんの政治家としてのこの問題についての考え、これが問われる問題だという点を指摘して、私の質問を終わります。

◎議長（辻田 実君） 以上で21番議員神田守隆さんの質問を終わります。

次に、3番議員島田 保さん。御登壇願います。

（3番議員島田 保君登壇）

◎3番（島田 保君） 最後になりますけれども、しばらく御清聴のほどお願いいたします。私は、さきに通告いたしましたとおり、農業問題、観光問題の6点について市長の御所見をお伺いいたします。

まず、農業問題について。ガット・ウルグアイ・ラウンドの農業交渉は、昨年12月15日最終合意され、食糧自給力の強化、米の自由化反対の国会決議に反し、農業農村を支えている人びとに大きな農政不信を招き、これからの農業経営に不安と動揺を巻き起こしました。我が国の農業は、担い手の減少、そして高齢化、農地の遊休荒廃化、農山村の過疎化、食糧自給率の低下等、まさに歴史的な難局に立ち至っております。この難局を切り開く政府は新農政を発表し、他産業並みの労働時間、規模拡大による経営の安定、農業法人化の推進、中山間地域の高付加価値農業の推進といった基本政策を掲げたわけでございます。また、千葉県では平成6年2月、本年の2月に千葉21世紀農業展望構想と位置づけた基本方針が発表され、平地農業、山間地農業、そして都市的農業と分類され、若い人の希望の持てる高所得農業の推進を目指し、中山間地域、すなわち安房、君津、夷隅など地理的条件の悪い農地については、花卉、果樹などの労働集約的高付加価値作物の生育が可能な小区画等の自然にマッチした整備を推進し、農業生産の誘導方向についても、園芸、水稻、畜産、果樹、花卉等の項目別に示されております。

そこで、館山市も平成6年度中に基本構想を作成するということでございますけれども、その対策について市長の御所見をお伺いいたします。最近新聞等で、農業再生の切り札として、市町村による農業公社設立の動きを耳にいたしますけれども、農地の売買は行わず、人手不足で耕作されていない田

畑を借り上げ、営農意欲の高い農家に貸し、経営規模を拡大、あわせて後継者の育成を目指すという制度で、各地にその輪が広がりつつあり、近隣市町村にもできたと聞いております。また、農業に意欲的かつ拡大計画を持ち、地域農業の中核的担い手となり得る農業者に対して市長が認定する認定農業者制度ができたわけであります。これらを踏まえた基本構想をつくるおつもりなのかどうか、お尋ねいたします。当然、農業経営基盤強化促進法に定められた農業委員会、農協あるいは関係機関と協議する計画はあるのか、あわせてお聞きいたしたいと思います。厳しい農業環境の中、将来を見越した市の農業の基本を、農業政策をお示しいただきたいと思います。

次に、第2点、規模拡大と機械化による農業経営合理化のため、基盤整備、農道舗装等の農村環境整備充実についてお伺いいたします。農業生産の基盤である優良農地を守り、中核的担い手農家育成のために、基盤整備、農道舗装等の重要性は今さら申し上げるまでもございません。現に館山市においても、北部地区におきましてはその後基盤整備事業もかなり進んでおりますけれども、いわゆる南部地区は、地理的条件の悪さもあることと思っておりますけれども、非常におくれている感じがするわけでございます。しかし、現実には農家の耕作者が減少し、耕作放棄地、遊休荒廃地が増大する中で、農家の大半が兼業収入に頼る現在の情勢の中で、新規な事業を行うことは並み大抵のことではございません。そのためには、地域の合意づくりをいかに進めるか。将来とも農業で頑張っていこうという人、農地は持っているが、サラリーマンで、農業は片手間という人、農業をやってきたが、高齢で後継者のいない人、それぞれさまざまであります。これらの人たちの話し合いと合意づくりを進め、地域の農業をだれに中心的に担ってもらうかが問題であります。

現状を深く把握し、その実現のために、各種補助金の補助率の引き上げが絶対不可欠な条件でございます。常に市長は農業の重要性を深く認識していると申されております。国、県にも強く補助率の引き上げを要望していただき、また市独自の補助率アップを、地元負担金の軽減を図ることを切にお願いしたいと思います。この際、思い切って補助率アップについての御明言をいただきたいと思います。

また、道路は血管とも言われております。血の道とも言われております。いかなる産業にとっても、道路網の整備は必要であります。特に、農業においては、経営規模の大型化、機械化によりまして、農道整備は急を要する問題であります。一部主要農道以外は、各集落ごとに市の農業用施設等補修用材料によって、いわゆる資材交付によって、農家組合の共同作業で賄われている状態で、遅々として進まないのであります。行政と地域が一体となって環境を整備し、区画された農地、完備した道路、そして国土保全、環境の美化に緑豊かな田園風景こそ、市民のだれもが願う姿でございます。農業の振興、中核的担い手農家のために、市長の適切な指導と財政的援助、補助率アップを重ねてお願いを申し上げます。このように厳しい農業環境の中、再三にわたりまして私どもは常に農業の振興のためにお願いをしてまいりましたが、何とかその実現のために御理解ある御協力をお願いいたします。

次に、第3点、観光問題についてお伺いいたします。世は挙げてリゾートだ、地域活性化だ、観光開発だと言われている時代であります。館山市においても2つの大型開発が予定されておりますが、バブル崩壊によって全く停滞し、全く期待薄の状況で、大規模総合リゾート建設を逆な視点に立って考えてみたいと思います。

地域経済の一翼を担う観光産業は、過去の夏型観光から、ここ数年、早春の南房総の花といちごでようやく二季型観光になってきたような感じがいたします。夏場の唯一の楽しみは、やはり海水浴でございます。観光行政は単に自治体のみで推進できるものではございません。観光には必ず観光業者が伴うものでございます。民間の力をどう結集し得るかということも重要であります。

昨年の低温長雨が一転して、本年は好天に恵まれ過ぎ、大変な猛暑の夏でした。ことしこそと願った観光関連業者はいま一つよい返事が返ってきません。JRの利用者にしろ、民間業者にしろ、昨年の夏よりは少しはよい、その程度の返事が返ってまいります。経済不況のせいなのか、それとも史上最高の高温と雨なしの暑い夏のせいなのか、海水浴が不人気なのか、その原因は何だったのでしょうか。ことしの夏は、海外旅行者は250万から260万人

の人が海外へ出かけたと発表しております。観光客の減は、最初は不況のせいだと言っておりましたが、それだけではありません。過去のにぎわいは影を潜め、まことに寂しい気がいたします。円高による海外への流出も1つの大きな原因なのでしょうか。あるいは、高速道路網が整備され、ほかの地へ人の流れが移ったのでしょうか。市としての、原因は何であるのか、お考えを伺いたいと思います。本年の夏の入り込み客について、その数と消費額も具体的な数字をお知らせ願いたいと思います。

次に、第4点としまして、観光地の美化活動についてお伺いいたします。一般的に館山は施設がないから通過する通過地点になっているような印象を受けるわけですが、まちの美観、道路の花の植栽等について、例えば国道128号線バイパスの花の街道、館山海岸フラワーラインの美化活動は現在どのように対応しているのか、お尋ねをいたします。

次に、第5点目といたしまして、各観光施設を総合リゾートパークとして位置づけ、各所にリゾートステーション的な役割を果たすバス停、ミニ休憩所をつくったらどうかということについてお尋ねいたします。我が館山市は、青い海と豊かな緑はあるが、施設がない、観光の目玉がない、資源がないと言われておりますが、既成の概念を打ち破り、知恵を働かせ、衆知を集めるならば、いろいろつくれると考えます。神社仏閣にしても、行楽地にしても、海水浴あるいは観光農業あるいは文化財等いっぱいあるわけでございます。この資源の掘り起こしも必要でございます。そのそれぞれの点を結んで線を引いたらどうでしょうか。昨年、波左間のバス停に南欧風のスペインがわらのしゃれた建物がつくられました。ことしは西川名に同様の建物ができたと聞いております。よそから来て館山バイパスに入って、花の街道、ヤシ並木、北条海岸にも花が咲き競い、平砂浦フラワーラインはクロマツ、白砂、そして花のじゅうたん道路、また民家にも公共建物にもいわゆる南欧風の、あるいは公衆トイレまで南欧風の建物が随所に見受けられます。

昨今この小さな建物でも、リゾートステーションとしてバス停並みに、せめて館山海岸から西岬を結び、平砂浦フラワーラインの旧料金所まで20カ所か30カ所つくれば、1つの大きな館山の名物になると考えます。そこにふる

さと道しるべ事業と名づけまして、館山らしいオリジナルなものを開発し、観光案内板や標識をつくり、備えつけたらどうでしょうか。地域と市民、来客の触れ合いを再認識し、活性化の一助にしたらいかがなものでございましょうか。31キロにわたる海岸線を持つ館山市のいわゆる海洋性リゾートタウンのイメージづくりにはうってつけの計画だと思います。また、市長の言うマスタープランのいわゆる館山南部のリゾートゾーンに1つの一角ができるわけでございます。将来はビーチ利用の海の開発、あるいは運動公園からウェルネスパーク等との連携も含めて、各施設への道しるべとして、行政主導の観光施設として、全額市費で建設していただきたいと思います。小規模ながら、あらゆるものを兼ね備えた館山のよさをじっくりと見ていただいて、そしてセットで周遊できるのではないかと思います。我が館山は、単なる通過地点にならず、当地のよさをじっくりごらんいただき、そして短期滞在型の観光地になるべきであると思います。市長のお考えをお伺いいたします。

最後に第6点、安房地域の6卸売市場統合について、促進協議会の進捗状況はどうか、お尋ねをいたします。市民の食生活に直接関係する食料卸売市場、現在鴨川を除く安房6市場が県の第5次卸売市場整備計画を受けて、郡内11市町村で統合のための開設促進協議会が設立されたとのことですが、生産者の大都市志向、大型卸売市場の整備に伴う流通の利便性や、消費者の多様化や豊富な品ぞろえの要求により、安房郡市内を経済エリアとする統合は絶対に必要であります。当然安房の中核、館山へ設立することが望ましいと考えますが、現在の進捗状況をお聞かせいただきたいと思います。6市場統合となれば、現在年商55億と言われ、館山市にとりまして経済波及効果は非常に大きいものがございします。企業誘致の1つとして、また生産者の出荷意欲の高揚にもなり、消費者にとりましても多種多様の品ぞろえができ、新時代のニーズに即した好企画と思います。ぜひ館山市に設立すべく御尽力のほどをお願いいたしまして、質問を終わります。

以上6点質問いたしました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) ただいまの島田議員の御質問にお答えいたします。

まず、大きな第1、館山市の基本構想についての御質問でございますが、館山市は現在、おおむね10年後をとらえまして、農業経営基盤の強化に関する基本構想を策定中でございます。これは、農業経営基盤強化の促進に関する目標及び営農類型ごとの効率的かつ安定的な農業経営の指標、また農用地の利用集積目標等について定め、館山市の特性を生かした農業経営基盤強化の基本的な推進方向を示すものでございます。今後千葉県関係機関並びに農協、館山市農業委員会等と十分協議の上、年度内に策定をしまいたいと考えております。

次に、大きな第2、農村環境の整備充実についての御質問でございますが、生産基盤の整備は大変重要であると認識しております。したがって、ほ場整備、農道舗装等、今後とも積極的に進めてまいりたいと考えております。また、基盤整備事業に対する受益者負担につきましては、国、県の施策をにらみながら検討しているところでございます。

次に、大きな第3、観光客の入込み状況についての御質問でございますが、今年度の夏の海水浴客は約36万 2,000人で行きました。昨年との比較では50.5%の増加となっております。また、市内の主要観光施設の入園者は昨年に比べて減少と伺っております。今後も観光客のニーズに見合った受け入れ態勢づくり等について、関係団体と協議の上、対応してまいりたいと考えております。

次に、大きな第4、観光地の環境美化活動についての御質問でございますが、花の館山にふさわしい環境づくりを推進するため、館山バイパスや館山駅前ロータリー、北条海岸通り、フラワーラインなどに花の植栽を行っているところでございます。

次に、大きな第5、各観光施設を総合したリゾートパークとしての位置づけ、それを結ぶリゾートステーション的役割を果たすバス停の建設、これについての御質問でございますが、この南欧風待合施設につきましては、平成5年度から海洋性リゾートタウンのまちづくりにふさわしい景観形成を促進

するために、海岸線を走るバス路線を重点に、地元の町内会等が実施するバス停留所の建設に対しまして補助する事業でございます。平成5年度は波左間区内、平成6年度は西川名区内に建設されましたが、今後とも事業主体となります地元要望を踏まえまして対応してまいりたいと考えております。

次に、大きな第6、安房地域の6地方卸売市場統合について、促進協議会の進捗状況はどうかとの御質問でございますが、平成5年12月に発足いたしました安房地域卸売市場開設促進協議会におきまして、平成5年度の事業といたしましては、生鮮食料品等流通実態調査をコンサルタントに委託いたしました。平成6年度も引き続きこれらの基礎的な調査を踏まえまして、地域の実態に応じたあり方等の調査を委託しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番島田さん。

◎3番（島田 保君） どうもいろいろありがとうございました。具体的な問題について少しお尋ねしたいと思います。

まず、第1点のいわゆる基本構想の問題でございますけれども、この基本構想がいわゆる新政策によりまして――国の政策、そしていわゆる農村整備基盤強化促進法という法律に沿いましてできて、県で基本方針をつくり、それがことしの6月にできたわけでございますけれども、本年度中に――最初は平成7年までという予定だったと思いますけれども、本年度中に各市町村のいわゆる基本構想をつくって提出するようなことになっているわけでございまして、実を言いますと、この新政策そのものが――いわゆる昭和27年にできました農地法から、自ら所有する農地を自分でつくる自作の主義から、どうしても自分の土地は自分でつくるのを原則としてやってきたこの日本の農業が、いよいよ経営の難しさから他産業に頼らざるを得なくなるのもありまして、これから作業受委託あるいは農地の賃貸とか借地化が進んでいくわけで、土地の買い占め、転用を恐れた農政が伝統的に私企業の農業経営の参入を拒否したわけでございますけれども、ここで企業の農地参入が条件つきながら許可になったわけでございます。そうなりますと、いわゆる日本の農業は農地がどうなるのか、この問題が大問題になって、これから大きな問題

になろうかと思えます。

そこで、いわゆる法人化の話が進みまして、いわゆる農業生産法人、この構成員には金融出資者の加入も条件ながら認めているわけでございますけれども、その中で、まず千葉県では香取郡の小見川町で農業公社が設立されました。地域営農体制の確立とか、農地の高度利用とか、あるいは館山市もよく言う地域の特性を生かした産地形成だとか、目的はみんな同じでございます。しかし、問題はこの農地をいかに維持するか。いわゆる耕作できない土地を手のある人が、あるいは意欲のある人が借りるような賃貸の要するに受委託でございます。館山市にもいわゆる水田受託組合なるものができてございます。また、話によりますと、成田市や鴨川市や富津市にもそのような動きがあると聞いておりますけれども、館山市にそのようなお考えがあるのかないか、まずこのあたりをお尋ねしたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 御質問でございますが、農地保有合理化促進事業について、そういう公社等の組織をつくるについての御質問だと思いますけれども、この農地保有合理化促進事業は、ただいま御質問にもございましたように、農地を貸し借りするなりして集積をしていく、そのための1つの組織としてそういう公社というようなものがあるわけでございますが、御質問にもございましたように、本年の3月ですか、受委託組織等もできてまいりまして、そういう中での農地の賃貸、権利設定というようなものも行われているわけでございます。現時点ではそういう農業公社というようなものの設立について具体的には考えておらないわけでございますけれども、今後そういう集積を図るためにそういう組織が必要だというような環境が出てまいりました場合には、関係機関とまた協議しながら対応してまいりたい、このように考えております。

◎議長（辻田 実君） 3番島田さん。

◎3番（島田 保君） そうすると、公社の問題は、恐らく私もまだ館山市の場合には無理だと思います。小さい町村、いわゆる地域の小さい町村は当然可能性があるわけけれども、館山の場合は無理かもわかりません。例え

ば、白浜町が40町歩の基盤整備をやったところを、いわゆる合理化事業でもって一応公社的なものをつくってあると思います。しかし、最初の予定とやっぱり — かなり難しいようなことも言っておられますけれども、白浜町の場合は40町歩という — そう言っちゃ失礼ですけども、普通の1集落、2集落程度の面積でございますから、できるのも当然かと思ひます。また、三芳村には農業機械銀行というものができました。これは機械を要するに有効利用する。村で何台か程度の大型機械を買って、当然貸すし、あといわゆる大型機械を持っている人がこの村へ申し込んで、貸し手から借りるような方式だと思いますので、これは当然のことだと思いますけれども、問題は、じゃ館山の場合はいかにしたらいいかということになるわけでございますけれども、今度もう一つの問題は、認定農業者制度というのができたわけございまして、これは農業に意欲的に取り組み、そして地域の中核的担い手を市長が認定した場合に認定農業者となるわけでございますけれども、この認定農業者は館山市に何人おられるんでございましょうか。

またあわせて、農業委員会で大規模農家の調査をいたしました。これは露地野菜3ヘクタール以上耕作者、あるいはハウス3,000平米以上の耕作者を対象にして調べた結果でございますけれども、そのあたりをちょっと — 私よく聞いておりませんが、できましたらこの数をお知らせ願いたいと思いますけれども。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） まず、認定農業者数でございますけれども、3名でございます。内訳で申し上げますと、酪農家1名、それから水稲の方2名ということでございます。

それから、農業委員会で実施いたしました大規模農業経営者の実態調査の数字でございますが、市内全域で82戸でございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番島田さん。

◎3番（島田 保君） そうしますと、認定農業者がいわゆる中核的担い手 — 地域のリーダー的な格のような感じを受けるわけですけども、3人で

はどうしようもありません。

そうすると、大規模農家が80何戸、これ露地野菜の3町歩以上の方が何人おられますか。ハウスが大勢だと思います。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 露地野菜で何名おいでになるかという御質問でございますが、これは御質問のように3ヘクタール以上ということでございますが、該当はございません。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番島田さん。

◎3番（島田 保君） それを踏まえましてこれから――要するに、基本構想というものは大体市でお持ちでございますか、あるいは、ただいまの答弁にありましたように、関係機関あるいは農協、普及所との話し合い、協議の上にこれから決定するんですか、その点をひとつ伺いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 先ほどの御質問のように、農業基本構想は本年中に作成ということでございます。市長答弁にもございましたように、農協さん、農業委員会等々の関係機関と協議をいたしまして進めていくことになる、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番島田さん。

◎3番（島田 保君） 関連しまして、今度は転作の問題についてでございますけれども、転作の問題について、いわゆる国の方針がまだ正式にははっきりしていないかも知れませんが、この転作というのが農地の賃貸には非常に影響してくるわけでございまして、私どもも農業委員会におりまして、いわゆる農地の集積、利用権の設定等につきましても、農地を借りると、それにつけて転作がついてくる。30アール借りると10アールぐらい転作というようなことになるとなかなか――それも困るわけで、30アール借りて10アール荒らす、しかし30アール借りれば30アールの要するに借り賃を出す

ということになると、この転作の目標は非常に難しい問題があるわけでございますけれども、この転作の問題について、昨年度は達成率が 107.4%と出ております。この転作をそのまま館山市の場合外したら、あるいは 100%、いわゆる今で言う国の目標面積に対して 100%いく可能性はございませんか。いかがなものでございましょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 転作の枠を外しても、館山市の場合に 100%ぐらいの転作が出てくるのではという御質問だと思うんですが、実際には 400ヘクタールを超える転作がなされているわけですが、今国の方で転作をいわゆる強制ではなく、選択制にするというような議論がされているというような、その辺を踏まえての御質問だと思いますけれども、100%出てくるかというようなことになると、ちょっと私どもとしても見当がつかない、お答えはちょっと難しい、こういうふうに私考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3 番島田さん。

◎3 番（島田 保君） そうしますと、いわゆるこの基本構想というのはこれから関係機関と協議をしながら進めていくということでございますか。大きな目標は、大体さっき御答弁いただきましたようにそのような方向で進むにしても、正式決定はいわゆる関係機関と協議して決めることになるわけでございますか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 基本構想の策定につきましては、その内容等から推しましても、行政だけで策定できる内容ではございませんので、そういう関係機関と十分協議をしながら策定を進めていく、こういうことでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3 番島田さん。

◎3 番（島田 保君） はい、わかりました。

じゃ、2 番の基盤整備の問題について少しお尋ねをしますけれども、基盤

整備といいましても、補助率の問題でございますけれども、どうしても集団でやる事業でございますので、賛成を得るには大変なわけでございます。これをまとめるにはどうしたらいいかという、どうしても集落ごとの地域の中核になるまとめ役が欲しいわけございまして、現在のところは、いわゆる館山市の農業協力員条例がございますけれども、あの協力員が中心になって、協力員が兼業農家あるいは農業をほとんどやっていない人がなった場合になかなかまとめにくい点があるわけございまして、中核農家の育成ということが一番大きな問題だと思うんです。だから、それをどんなふうにしたらいいか。私はやっぱりいわゆる新制度による農事組合法人的なものをつくる、そして若い人、そういう人たちにやってもらうような方向をつくるべきだと思うわけでございますけれども、これは今ちょっと言っても無理かもわかりませんが、この基盤整備の補助率について、どうしてもこれは市長にもひとつぜひ聞いていただきたいことなんでございますけれども、農業をやめた人の土地までもやっぱり金を出してやるというのはなかなかできないわけで、いわゆる地元負担を軽くしていただくならば、必ずできると思うわけでございます。そのあたりを重々御配慮いただきまして、ひとつこれからの農政に携わっていただきたいと思います。

そこで、現在の館山市の農業生産高についてちょっとお聞きしたいと思いますが、現在米の生産は何位になっていきますか。もしわかりましたら、生産高の1位から4位、5位ぐらいまでちょっとお知らせ願いたいと思いますけれども。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 生産高についての御質問でございますが、1位が畜産でございます。それから、2位が野菜、3位が花卉、4位が米、5位が果実——果物でございますね、おおむねそういう順位でございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番島田さん。

◎3番（島田 保君） そうなりますと、今まで米が一番多かったのが4位に転落したわけで、1位は相変わらず畜産。畜産といいますと、大体牛が主

かと思えますけれども、この順位は今までと大体変わりはないですか。いわゆる地域の特性を生かした農業ということになりますと、このあたりは花がどんどんふえてきている、あるいは——そう言っちゃ悪いですが、畜産の方は少し斜陽的な傾向もあるんじゃないかというような気もするわけでございますけれども、このあたりの順位は大して変わっていないですか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 今順位は申し上げたとおりでございますけれども、ここ二、三年の間に花卉が非常に伸びてまいりまして、かつては米の方が花卉の上位にあったわけでございますけれども、ここへきまして花卉が米を上回った、こういう状況でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番島田さん。

◎3番（島田 保君） 2番の問題についてもう一つお聞きしますけれども、いわゆる肝心の基盤整備の達成率についてお尋ねします。いわゆる水田 1,709ヘクタールの農地のうちで今基盤整備のできている農地は何%ございますか。またあわせて、農道の舗装率もちょっとお尋ねしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） まず、基盤整備の達成率でございますけれども、経営耕地面積と対比いたしますと、おおむね50%でございます。それから、農道の舗装率でございますが、これは広い幅員のものから里道まで含めまして、おおむね60%ということでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番島田さん。

◎3番（島田 保君） そうしますと、この基盤整備の普及率もかなり低いわけでございますが、今私が要求しましたように、いわゆる地元負担を減らしたならばかなり進むんじゃないか。少なくとも現在のところは北高南低型のいわゆる状況でございまして、何とか南部の方もそういうふうな方向で考えていただきたいなと思うわけでございます。時間の都合もございますので、一応この1番、2番の農業問題については了承いたしました。

続きまして、3番の観光の問題に移りたいと思いますけれども、今年度の入り込み数が――夏だけでございますけれども、いずれにしても、とにかくこのいいお天気に、暑い夏にお客が余りふえないということは何が原因なのか、いわゆる市としてどんなふうな考えを持って対策があるのか、さっきも御答弁いただきましたけれども、改めて部長の方から簡単をお願いしたいと思いますけれども。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 入り込みに関連しての御質問でございますが、夏はことしは昨年と違いまして非常に好天に恵まれました。逆に暑過ぎるといような、そういう気候状態が続いたわけでございますが、入り込み客につきましては、昨年は御承知のように冷夏長雨ということで、夏の入り込み客が激減したわけでございますが、50%強ふえたといえますのは、昨年のそういう状況をベースにしての数字であるわけでございます。したがって、一昨年の夏の入り込みと比較いたしますと3万人程度の増、言うならばほとんど同程度というような状況でございます。

その少ない原因というようなことでございますけれども、いろいろあろうかと思えます。ということは、まだ具体的にその辺の詰めをしていないわけでございますが、暑過ぎたというようなこともございますし、かつては海に來た人が山の方にいわゆるシフトしたというようなことももう一つの理由ではないのかなと言う方もおいでになります。また、特にことしは暑かったというようなことから、道路の整備が未整備だということ、いわゆる時間距離が非常にかかるというようなことも原因ではないか。恐らく1つの理由ではなく、そういう複数の理由によってこういう傾向が出てきたのではないかというふうに考えております。

また、ことしの入り込み関係につきまして、これは観光協会の案内所の方で、8月の中旬過ぎでございますが、簡易な調査をしたわけでございます。これは宿泊施設への動向でございますけれども、普通以上というふうにお答えいただいた――これは宿泊施設でございますので、旅館、ペンション、民宿でございますが、約70%ぐらい。これは全体で50ぐらいの施設でございま

すので、全部のを調査したわけではございませんで、1つの傾向として申し上げたわけですが、今までよりも悪かったという方が約30%。特に、民宿においては普通以上という方が6割弱、悪かったという方が4割強というようなことで、その辺、どういう理由でそういう数字が出てきたのか、また業界の方といろいろとその辺の検討はしてまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番島田さん。

◎3番（島田 保君） そうしますと、全体的にはこれからも余り——今のところでは万々歳というわけにはいかない。実を言いますと、JRの方へ聞きましても、どうもお客がふえない。恐らく将来はこれ以上ふえないんじゃないか。バスの場合には、見込みとしては5%ぐらいを見込んでいるんだ、そんなふうな話も出てきているわけですが、その中でいわゆる南パラ、ファミリーパーク、平砂浦方面へはかなり——夏ではございませんけれども、一応周年観光としてはかなりふえているような傾向が見えるようでございます。また、花摘みについてもしかりでございます。

この観光農業についても、またいずれ私は勉強させていただきますけれども、観光農業についても、ただ花摘みだけでなく、花もいろんなものをつくって切らせる、あるいは冬やっているようにトウモロコシ畑に——転作田にトウモロコシを植えて、1本80円や100円でもぎ取りもできるんだ、あるいは落花生の掘り取りをすぐその場で持ってゆでて食べさせる、いろんなことが考えられるわけですが、既設のものにこだわることはないと思うわけで、少し考えれば、農業と観光のいわゆる両立も可能であると思いうわけでございます。いずれにしても、いわゆる館山の観光も1つの大きな基幹産業でございますし、また市の活性化のためには必要なことは間違いございません。

そこで1つ問題になるのが、中小企業融資の利子補給制度があるそうでございますけれども、民宿によりましては、トイレの水洗ができていないとか、あるいは空調があるとかないとかいう話も聞いていますけれども、そういう

ふうな問題につきましても、市の行政として何とかPRをして、1つの悪さが全部に伝わるような問題もあると思いますので、その点をひとつ御理解を得て、PRもしていただきたいような気もいたします。

それから、今度は4番の環境美化の問題につきまして、一応市としてどのような活動をしているのか、先ほどの話でも大体わかりました。しかし、私が特に考えるのは、よそへ行った場合、トイレがどうも千葉県へ来ると、南部地域を見ると汚いというような感じがありましたので、これらを含めてひとつ環境の美化、そのあたりをどんなふうにするのか、お尋ねしたいと思うわけでございます。その点は――トイレの清掃等については全部市でやっているんですか、それとも観光業者あるいは町内会等でやっているんですか、その点はいかなるものでございましょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） トイレの清掃でございますが、これは市でいたしております。公園等にございますものにつきましては業者委託というようなものもございますけれども、特に頻度の高い――例を申し上げますと、北条海岸のトイレ等につきましては、ほぼ毎日というような形で清掃をいたしておりますし、またそう頻度の高くないところにつきましては、週3回とかというような形で対応をいたしております。ただ、今までもそういう中で汚れがひどいというようなところにつきましては、いわゆる清掃頻度を上げるとかというようなことで対応はしておるわけでございますが、確かに御指摘のように、トイレの汚れというのは非常にその観光地に行った場合に目につく、一番目につくというようなところでございますので、その辺は十分留意してまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番島田さん。

◎3番（島田 保君） 次に、館山城、また市立の博物館でございますけれども、安房博物館では特別展示期間は月曜日休館であってもオープンして見せるようなことを聞いておりますけれども、館山市の場合には8月のお客の来るときでも月曜日は必ず休館だというふうなことを聞いていますけれども、

今後人の多く来るときには月曜日休館を変更するようなわけにはいかないのでしょうか、どうですか、ちょっとお尋ねしておきます。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 現状といたしましては、今までどおりの規定でもって進めていくというふうに考えております。

◎議長（辻田 実君） 3番島田さん。

◎3番（島田 保君） 次、5番のいわゆるバス停の問題でございますけれども、あれはバス停じゃなくて、いわゆる観光事業として、いわゆるふるさと道しるべとして、海岸線にかなり多くのものを——あの簡単な建物でも、幾つもあればかなりの名物になると思うんです。あれだったら市でも、1年で10も20もつくるわけじゃなかったら可能性はあるんじゃないか。そうすれば、やっぱり館山の名物に——いわゆる南欧風の名物が館山へできたということになるんで、別にバス停にこだわるわけじゃございませんけれども、観光としてああいうのをつくったらどうですかということを私は言いたいわけでございます。そこにやっぱりある程度のもちろんPRだとか、この次にはこういうことがありますとかいうことをお知らせすることが必ずお客さんにもわかってもらえるいいことじゃないかなと思うわけで、波左間の例を見ますと、去年も300万ですか、地元は100万出して、200万を市で負担するというのでございますけれども、これを全部市でやっていただけたらいいんじゃないか。少なくともとりあえずは観光地の主なところへつくるような計画を持っていたきたいと思うんですけれども、いかがでございましょうか。そういう考えはございませんか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 平成5年から2カ所、南欧風待合施設ということで、既存のバス停を地元で改築をされる場合に、いわゆる南欧風という上乗せ部分を市が助成をしてつくったわけございまして、これは公共の建物——これは民間にも御協力をお願いしているわけでございますが、そういう景観を統一しようということで特に公共施設はやっているという、その中で、リゾートというような考え方から、特に海岸線にあるバス停につきまして、

地元町内会で改築という御計画がある場合には補助要綱ということで対応しているわけでございます。これを全額公費というようなことでございますけれども、そもそもバス停をそういうふうに景観整備していこうというようなことでスタートいたしましたので、やはり地元の御負担というようなものを現在のところは念頭に入れて考えております。いま一つ、つくりたくても敷地がないというような、そういうバス停もあるわけでございますので、その辺をどうクリアしていくかというようなことが当然課題としてあるわけでございます。

それと、先ほどの御質問の中に、フラワーラインの方をずっとというようなことでもございましたんですが、フラワーラインに入りますと、いわゆる集落とまいましようか、その辺の方の利用というものがなくなってくるわけでございますので、いわゆる地元というものが非常に希薄になってくるわけでございます。ただ、フラワーライン沿線には観光施設がございますので、そういう観光施設との話の中で、バス停の南欧風の待合施設というような形で整備できるものがあれば整備をしていきたい、このように考えております。

◎議長（辻田 実君） 3番島田さん。

◎3番（島田 保君） だから、今も部長が言われたように、土地の確保が難しいと言うけれども、土地はとにかく地元で提供していただく、そう大きな面積じゃございませんから。そして、あとは市が全額建物を建てるという方式でやっていただければいいと思います。

どうもいろいろありがとうございました。これで質問を終わります。

◎議長（辻田 実君） 以上で3番議員島田 保さんの質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午後2時50分

◎議長（辻田 実君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

なお、明13日から15日まで議案調査のため休会、次会は9月16日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議を行います。

この際申し上げます。一般議案及び補正予算に対する質疑通告の締め切り

は13日正午、平成5年度各会計決算に対する質疑通告の締め切りは16日正午
でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問